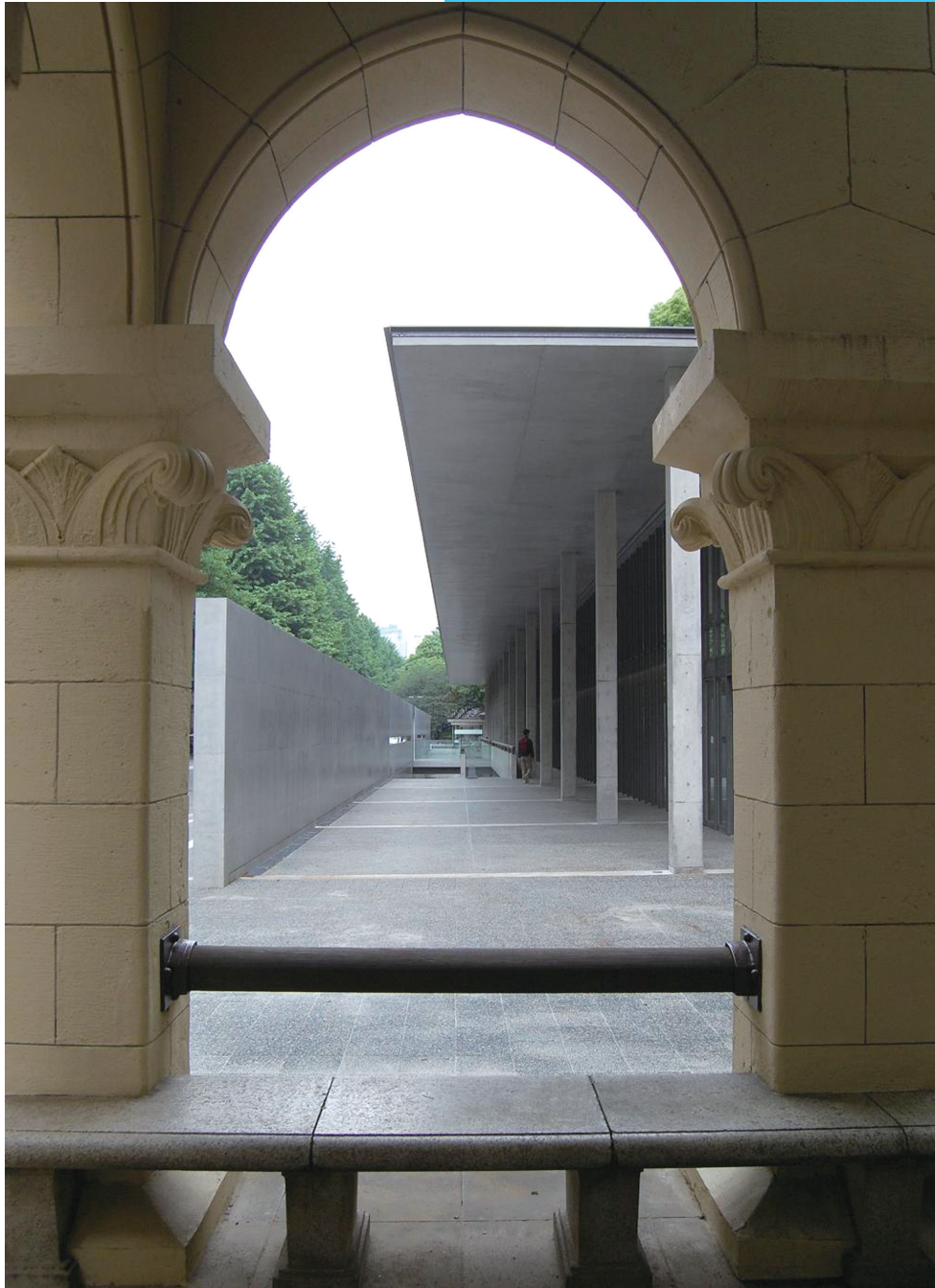


# 学内広報

for communication across the UT



特集:安心・安全なキャンパス整備を進めています!  
～これまでに実施した事業とこれからの予定事業～

2008.6.13

No. 1374

# 特集

## 安心・安全なキャンパス整備を進めています。

～これまでに実施した事業とこれからの予定事業～

昨年度はキャンパスのあちこちで工事を行ってまいりました。そのため、通行止めや騒音で、ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。工事を担当している施設・資産系では、「安心・安全なキャンパス」を実現するためにキャンパスの施設整備、環境整備等を総合的に計画し着実に実施しております。今回は平成18・19年度の2年間に整備した建物や広場等と平成20年度以降に整備する予定の建物をご紹介します。



施設担当理事・副学長  
西尾茂文

### これからの施設整備はこうなります。

大学院の重点化以降、教育研究スペースの狭隘化・老朽化を解消するため新たな建物を建設してまいりました。ここ数年は、安心・安全な教育研究環境を確保するために耐震改修を重点的に行なっています。今年も耐震改修を重点的に行ないながら、いよいよ15棟の建物新営を進めます。国の予算が厳しいため、今後は国費のみではなく、寄附金やスペースチャージ、PFI等を組合わせた「三色団子」といわれる整備手法が中心となっていきます。また建物を整備した場合、原則として整備面積の20%を全学共同利用スペースとして供出して頂くことになっておりますのでご協力をお願いします。工事中ご迷惑をおかけ致します。ご理解を承りますようお願い申し上げます。

## 本郷地区キャンパス

### 平成18・19年に整備した施設



(1) 情報学環・福武ホール

↑情報学環・福武ホールは、福武總一郎氏の寄附により建設され、本学の安藤忠雄特別栄誉教授が設計を行いました

### 【本郷】平成18,19年度実施事業一覧

事業名	
(1)	【新営】情報学環・福武ホール[寄附]
(2)	【新営】アントレプレナープラザ[寄附]
(3)	【改修】東洋文化研究所
(4)	【改修】薬学部本館
(5)	【改修】医学部総合中央館
(6)	【改修】けやき保育園
(7)	【改修】情報基盤センター・低温センター
(8)	【改修】工学部12号館
(9)	【改修】RIセンター
(10)	【改修】地震研2号館
(11)	【環境整備】知のプロムナード

### (11) 知のプロムナード

→ 工学部1号館前



(6) けやき保育園



(8) 工学部12号館



← 医学部本館前



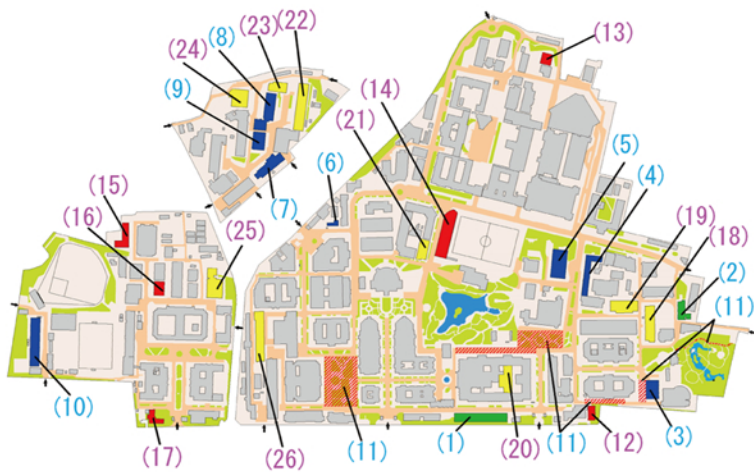
(5) 医学部総合中央館



(3) 東洋文化研究所

### 改修した建物



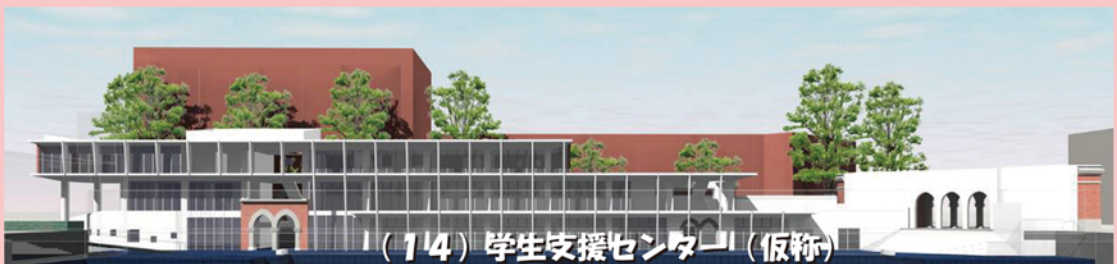


本郷地区キャンパスでは、この2年間に2棟の新営（新築）工事と8棟の改修工事を行いました。今年度は6棟の新営工事と9棟の改修工事を行なう予定です。

青字の建物は平成18・19年に整備した建物、赤字の建物は整備中または平成20年度以降に整備する建物

### 整備中または平成20年度以降に整備する施設

→本郷地区キャンパスの各所に分散している学生サービス機能を、キャンパスの中心に集中化し充実したサービスを提供するため、御殿下記念館の一部改築を行ないます



(14) 学生支援センター (仮称)



(15) 向ヶ岡ファカルティハウス

←創立130周年記念事業として外国人研究者等の短期滞在用施設を整備します



(17) 弥生講堂アネックス (仮称)



(18) 医学部3号館

※整備予定の建物は計画案を掲載しているため、実際の外観と異なる場合があります。

### 【本郷】平成20年度 実施事業一覧(予定)

事業名	構造	地上	地下	面積	工期(予定)
(12) 【新営】 経済学部学術交流研究棟(仮称)[寄附]	鉄筋コンクリート造	6階	2階	2,800㎡	H19.10 ~ H21.5
(13) 【新営】 看護師宿舎	鉄筋コンクリート造	8階	-	3,700㎡	H20.7 ~ H21.5
(14) 【新営】 学生支援センター(仮称)	鉄筋コンクリート造	2階	2階	1,800㎡	H20.9 ~ H21.12
(15) 【新営】 向ヶ岡ファカルティハウス	木造	2階	-	1,000㎡	H20.7 ~ H21.3
(16) 【新営】 フードサイエンス棟(仮称)[寄附]	鉄骨鉄筋コンクリート造	7階	-	3,600㎡	H21.1 ~ H21.12
(17) 【新営】 弥生講堂アネックス(仮称)[寄附]	木造	2階	-	480㎡	H19.5 ~ H20.6
(18) 【改修】 医学部3号館	鉄筋コンクリート造	7階	1階	8,040㎡	H19.10 ~ H20.6
(19) 【改修】 生命科学動物資源棟	鉄筋コンクリート造	7階	1階	5,630㎡	H19.8 ~ H20.9
(20) 【改修】 研究・収蔵棟(史料・社研)	鉄筋コンクリート造	6階	1階	7,260㎡	H20.8 ~ H21.3
(21) 【改修】 理学部化学本館	鉄筋コンクリート造	5階	1階	3,780㎡	H20.8 ~ H21.3
(22) 【改修】 理学部3号館	鉄筋コンクリート造	5階	1階	7,430㎡	H20.8 ~ H21.3
(23) 【改修】 工学部タンDEM加速器研究棟	鉄筋コンクリート造	5階	-	1,500㎡	H20.7 ~ H21.3
(24) 【改修】 工学部原子動力実験装置室	鉄筋コンクリート造	2階	-	1,150㎡	H20.7 ~ H21.3
(25) 【改修】 農学部中央図書館	鉄筋コンクリート造	3階	1階	3,200㎡	H20.8 ~ H21.3
(26) 【改修】 工学部7号館	鉄筋コンクリート造	6階	1階	7,280㎡	H20.7 ~ H21.3



## 駒場 I キャンパス

駒場 I キャンパスでは、学生の福利厚生施設を拡充するため、コミュニケーションプラザやロッカー棟を新営しました。今後は、初年次活動センターの建設や、安全・安心なキャンパス実現のため耐震改修を行なってまいります。



(1) コミュニケーション・プラザ

平成18・19年に  
整備した施設

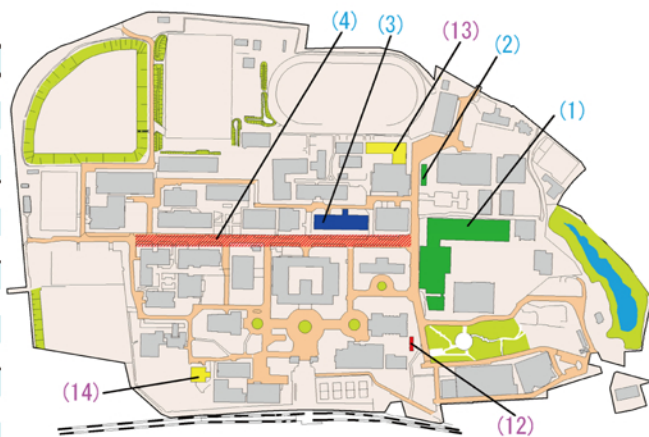


(2) ロッカー棟

←キャンパス構成員の福利厚生施設を充実させるために、食堂・購買機能を含めたPFI事業として実施しました

### 平成 18,19 年度 実施事業一覧

キャンパス	事業名
駒場 I	(1) 【新営】コミュニケーションプラザ
	(2) 【新営】ロッカー棟
	(3) 【改修】8号館
	(4) 【環境整備】知のプロムナード
駒場 II	(5) 【改修】総合研究実験棟 (A棟・As棟)
	(6) 【改修】56号館
	(7) 【環境整備】知のプロムナード
柏	(8) 【新営】福利厚生施設
	(9) 【新営】強磁場コラボラトリ
	(10) 【環境整備】西側遊歩道
	(11) 【環境整備】知のプロムナード
白金	【改修】2号館
	【改修】附属病院B棟
	【環境整備】知のプロムナード



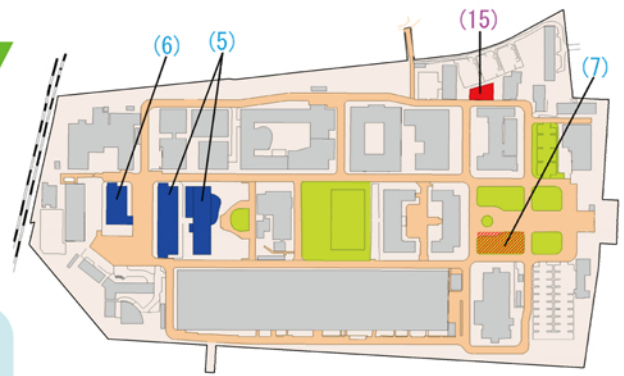
### 平成 20 年度 実施事業一覧 (予定)

キャンパス	事業名	構造	地上	地下	面積	工期 (予定)
駒場 I	(12) 【新営】初年次活動センター	鉄骨造	1階	-	60㎡	H20.6 ~ H20.8
	(13) 【改修】学生会館	鉄筋コンクリート造	3階	1階	2,410㎡	H20.7 ~ H21.3
駒場 II	(14) 【改修】102号館	鉄筋コンクリート造	3階	1階	1,160㎡	H20.7 ~ H20.12
	(15) 【新営】保育施設	木造	1階	-	220㎡	H20.5 ~ H20.10
柏	(16) 【新営】海洋研総合研究棟	鉄筋コンクリート造	7階	-	15,000㎡	H20.2 ~ H22.2
	(17) 【新営】数物連携宇宙研究機構研究棟 (仮称)	鉄筋コンクリート造	5階	-	6,000㎡	H20.10 ~ H21.9
	(18) 【新営】保育施設	木造	1階	-	200㎡	H20.7 ~ H20.11
柏 II	【新営】インターナショナルロッジ (仮称)	鉄筋コンクリート造	4階	-	6,600㎡	H20.11 ~ H21.6
白金	【新営】保育施設	木造	1階	-	170㎡	H19.12 ~ H20.7
追分	【新営】新追分国際宿舎 (仮称)	鉄筋コンクリート造	14階	-	6,000㎡	H19.10 ~ H21.10
山中	【新営】山中寮内藤セミナーハウス [寄附]	鉄骨造	1階	-	1,690㎡	H20.6 ~ H21.2



## 駒場IIキャンパス

駒場IIキャンパスでは、正門のすぐ前に知のフロムナード整備、また安全・安心なキャンパス実現のため耐震改修を行なってまいりました。今後は、保育施設の建設を行なってまいります。



平成18・19年に整備した施設



(5) 総合研究実験棟



(6) 56号館



(7) 知のフロムナード

## 柏キャンパス

柏キャンパスでは、教育研究環境改善のため、福利厚生施設を建設しました。今後は、中野キャンパスに設置されている海洋研究所の移転のため、総合研究棟の建設に着手し、また保育施設および平成19年10月に発足した数物連携宇宙研究機構の研究棟の建設も行なってまいります。

平成18・19年に整備した施設

### 新営した建物



(8) 福利厚生施設

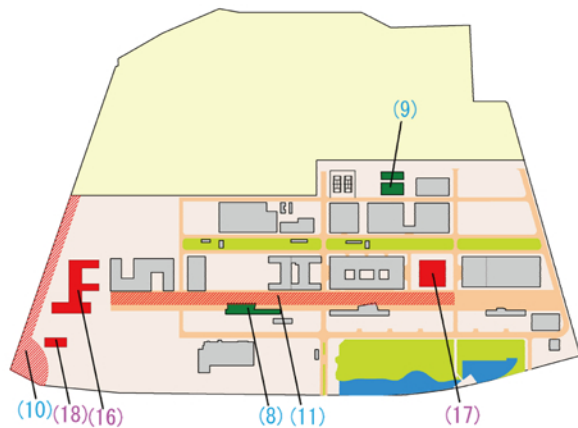


(9) 強磁場コラボラトリー

### 環境整備



(10) 西側遊歩道



整備中または平成20年度以降に整備する施設



(16) 海洋研総合研究棟

問い合わせ先：本部プロジェクトグループ プロジェクト企画チーム（内線）22261  
E-mail：projectkikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



# NEWS

## 春の紫綬褒章受章

大学院医学系研究科・井原康夫名誉教授、大学院理学系研究科・黒岩常祥名誉教授が、本年春の紫綬褒章を受章いたしました。

## 井原 康夫 大学院医学系研究科・医学部名誉教授

井原康夫名誉教授は、長年にわたりアルツハイマー病の研究に努めてこられました。この中でもアルツハイマー病脳に見られる神経原線維変化におけるタウタンパク質の同定は、アルツハイマー病研究の生化学的礎として世界で高く評価されて



おります。井原先生のこの脳内蓄積物へのアプローチはアルツハイマー病のみならず種々の神経変性疾患研究の範となり、多くの研究者を刺激することとなりました。

井原先生のこうした独創的な研究業績は多くの若手研究者をひきつけ、さらに先進的な研究成果へと導き続けました。特に神経原線維変化がタウタンパク質のほかにユビキチンから構成されていることを解明し、一方で同じくアルツハイマー病脳に見られる老人斑の構成成分としてアミロイドβ42を同定しその意義を明らかにされました。これらの研究業績は現在のアルツハイマー病研究発展のマイルストーンとして認識され、我が国のアルツハイマー病研究のレベルを国際的なものに引き上げるまでに至りました。近年では、特定領域「脳科学の先端的研究」の総括代表者として神経疾患のみならず脳科学研究の指導的な役割を果たされてこられました。今回の栄誉はこれまでの研究業績と脳科学研究への功績によるものと思われま

す。最近では厚生労働省のサポートも得て、NEDOおよび製薬企業などからの研究資金で運営される「アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト (J-ADNI)」の立ち上げに尽力されるなど、世界的に広まる早期診断法の確立を目指した臨床研究にも力を注いでおります。

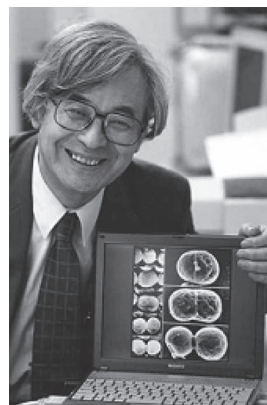
現在、井原先生は日本認知症学会の理事長として認知症専門医制度をスタートさせ、基礎研究の成果に基づく認知症診療を実現すべく尽力する一方で、一般向けの啓蒙活動も精力的におこなわれ、健康で明るい長寿社会の実現にむけて鋭意努力されています。これからも井原先生の研究のご発展とご健勝を祈念してやみません。

(大学院医学系研究科・医学部)

## 黒岩 常祥 大学院理学系研究科・理学部名誉教授

本学名誉教授（大学院理学系研究科）である黒岩常祥教授（現立教大学理学研究科）が、植物細胞生物学分野の研究における功績により、平成20年度春の褒章で紫綬褒章を受章されました。

黒岩教授は、永年にわたって植物細胞生物学の教育、研究に努められ、細胞小器官ミトコンドリアと葉緑体の分裂装置を発見し、それらの分裂増殖および母性遺伝のしくみの解明に多大な貢献をされてきました。



今世紀に人類が直面する地球規模のさまざまな問題の解決には、植物のはたらきという視点が欠かせません。植物は、太陽エネルギーを利用して光合成を行い、CO<sub>2</sub>を固定してO<sub>2</sub>を放出し、食料となるデンプン（糖）を生産して、地球上の全ての生物の生存を支えています。この光合成の場が細胞内の「葉緑体」です。一方、動物も含めたほとんどの生物は、糖を細胞内の「ミトコンドリア」で分解して活動エネルギーを得ています。「葉緑体」と「ミトコンドリア」は、約20億年前に宿主細胞に共生したバクテリアの子孫であり、現在まで細胞内で増殖し続けてきたと考えられています。黒岩教授は、ミトコンドリアと葉緑体の「分裂装置」を発見し、それまで謎に包まれていたこれらの細胞小器官の分裂増殖の分子機構を解明しました。また、ミトコンドリアと葉緑体の遺伝子（DNA）は、ほとんどの生物で母方からのみ子孫に伝わる「母性遺伝」をすることが知られていますが、黒岩教授は、これが「雄由来のDNAの選択的分解」によることを発見しました。これらの研究を進展させるため、真核生物の要となる原始紅藻（シズン）を探し出し、ゲノム解読を行い、世界ではじめて真核生物のゲノムの100%解読に成功しました。シズンは現在、重要なモデル生物として世界中で利用されています。

こうした業績に対し、この度の紫綬褒章に加え、6月末には、米国植物科学会の最も伝統と名誉ある賞であるチャールズ・リード・バーンズ賞を受賞されることが決まっています。今後ますますのご活躍を念じてやみません。

(大学院理学系研究科・理学部 中野明彦)

【撮影：大西成明】



## 一般ニュース

### サステナビリティ学連携研究機構

#### IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウム「科学者が語る第4次評価報告書のメッセージ」開催される

4月17日（木）、本学安田講堂において、東京大学、サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）主催による IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウムが開催された。

昨年末にノーベル平和賞を受賞した IPCC では、第4次評価報告書の内容を報告すべく、世界各国でさまざまなアウトリーチを展開している。特に、日本における報告は、IPCC 側より強い要望があり、本学にて IPCC・IR3S 共催での一般公開シンポジウムを開催する運びとなった。

このような経緯から、本シンポジウムには IPCC からラジェンドラ・パチャウリ議長、第2作業部会のマーティン・パリー共同議長ら主要メンバーが来日し、報告書の作成に貢献した日本の第一線の科学者とともに、気候変動問題の現状について報告し、地球環境の未来について語った。平日にもかかわらず、市民、行政関係者、産業界、研究者、学生など学内外から 1,063 名が集まり、安田講堂を埋め尽くした。

シンポジウムでは、IR3S の機構長でもある小宮山宏総長の開会挨拶の後、このシンポジウムのために制作された IPCC 第4次評価報告書についてのパチャウリ議長のビデオメッセージが上映された。次に、東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ (TIGS) 統括ディレクター・住明正教授による「気候変動からグローバル・サステナビリティへ」と題した基調報告が行われ、引き続き各作業部会からの報告が行われた。第1作業部会からは海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター・松野太郎特任上席研究員、第2作業部会からはパリー共同議長、原沢英夫国立環境研究所領域長、沖大幹生産技術研究所教授、三村信男茨城大学教授が代表して報告を行った。また、国立感染症研究所の倉根一郎部長にも第2作業部会に関連して、温暖化による健康への影響についてご報告いただいた。最後に、第3作業部会に参加した松橋隆治新領域創成科学研究科教授から報告があった後、武内和彦 IR3S 副機構長の挨拶で閉会となった。

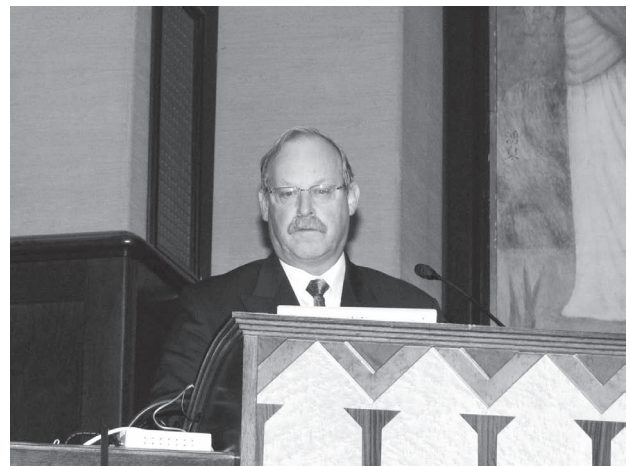
シンポジウム翌日には、山上会館にて IPCC - IR3S 専門家会合が開かれた。この会合には 63 名の研究者が参加し、IPCC 第5次評価報告書に向けて最新の研究報告や意見交換などを行った。

※下記の URL から公開シンポジウムの講演資料を一部ご覧いただけます。

IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウムホームページ  
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/res/res5/ipcc-ir3s/index.html>



公開シンポジウム前に行なわれた記者会見の様子



講演する IPCC 第2作業部会のパリー共同議長



一般

### 本部学生支援グループ

#### 山中寮休寮式典開催される

教育・学生支援系では、4月20日（日）、山梨県山中湖村において東京大学山中寮休寮式典を挙行了。山中寮は、昭和4年の建物竣工以来、80年間にわたり、様々な方々との出逢いを通じ、学生の人間形成を図る場として機能してきた。この度、平成20年3月31日をもって休寮することとなり、歴史的木造建物の取り壊しに伴い、これまで寮の運営にご尽力いただいた本学OB・地元関係者の方々に感謝の意を表するとともに、日頃からお世話になっている地元関係者をお招きして、現山中寮の長い歴史を偲ぶ目的で行われたものである。

当日は、山中湖村から高村前村長、高村教育長、本学から浅島理事・副学長、杉山副理事、古田運動会理事長、石橋富士演習林長をはじめ、多くの関係者が出席された。



今後は、5月に建物取り壊し終了後、建設工事が始まり、平成21年4月から「山中寮内藤セミナーハウス」がオープンする予定である。



寮の前にて記念撮影

本部学生支援グループ



「第60回 東京大学・一橋大学対校競漕大会（東商戦）」開催される

4月27日（日）、一橋大学との伝統の対校ボートレースである東商戦が開催され、当日は天候にも恵まれ、応援部の力強い応援の中、盛大に行われた。

今年は、両校共に部員数が多く、それを受け種目にオープン男子ダブルが新たに増設された。しかし、そのオープン男子ダブルを含む全てのスカル（オールを一人二本持って漕ぐ）種目のオープン男子シングルスカル、オープン男子ダブルスカル、オープン女子シングルスカル、対校女子クォドルプル、及びオープンジュニアエイトは一橋に敗れてしまった。ただ、その他のスイープ（大きいオールを一人一本持って漕ぐ）種目であるオープンフォア、対校フォア、対校エイトでは、勝利を収め、特に大学の威信を掛けて臨んだ対校エイトでは過去10年の中で最も良いタイムを記録した（対校種目のタイムは下表を参照）。目標としているインカレ優勝に向けての準備は整いつつある。

今後は、インカレまでに大学トップクルーとの差を完全になくし、逆に追い抜けるよう部員一同、日々の活動に精力的に取り組んでいきたい。

東商戦当日、応援に駆けつけてくださった杉山副理事、学生支援グループの方々、応援部の方々、学内の皆様、本当に有り難うございました。今後とも漕艇部の活動を見守っていただければ幸いです。

<東商戦結果（対校種目のみ）>

対校 W 4x+		対校 M 4+			
女子舵手付クォドルプル		男子舵手付フォア			
一橋大学	7' 42" 18	1	一橋大学	7' 13" 65	2
東京大学	8' 01" 90	2	東京大学	7' 10" 97	1

対校 M 1x  
男子シングルスカル

対校 M 8+  
男子エイト

一橋大学	8' 15" 18	1	一橋大学	6' 18" 91	2
東京大学	8' 24" 30	2	東京大学	6' 13" 02	1

<今後の漕艇部の活動>

- 5月16～18日 全日本選手権
- 7月6日 京大戦
- 8月21～24日 全日本大学選手権・OX盾レガッタ
- 10月17～19日 全日本新人選



一橋戦の勝利で歓喜の声をあげる本学エイトクルー

地球観測データ統融合連携研究機構



第2回「データ統合・解析システム」(DIAS) フォーラム開催される

第2回DIASフォーラムが、5月9日（金）（13:15～18:00）、武田先端知ビル、武田ホールにて開催された。本フォーラムは、(独)宇宙航空研究開発機構、および(独)海洋研究開発機構、東京大学地球観測データ統融合連携研究機構（EDITORIA）が中心となって、平成18年度より研究開発を推し進めている、第三期科学技術基本計画の国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」の一翼を担うプロジェクトである、「データ統合・解析システム（DIAS）」の一環として、昨年（2006年）の第1回フォーラムに引き続き開催されたものである。

第2回DIASフォーラムでは、「データ統合は社会を変えられるか？」と題して、データ統合によって生まれる構造化された知が、社会における意思決定にどのように利用されるかに焦点を当て、学内研究者はもとより、官公庁、一般の企業などから、総勢176名の参加があった。冒頭には、本学の小宮山宏総長、総合科学技術会議の相澤益男議員、文部科学省研究開発局の岡村直子環境科学技術推進室室長らによるご挨拶をいただいた。その後、小池俊雄機構長、喜連川優教授（生研）、長井正彦特任研究員（空間情報セ）からDIASの開発状況についての説明があり、ポスターセッションを挟んで、4つ

の特別セッションにて公共的利益分野におけるD I A Sの利用状況が紹介されるなど、熱心な議論が続いた。

相澤議員からは「データ統合・解析システム」に対して、「1. 今回のD I A Sフォーラムを通じて、ユーザーサイドのニーズをしっかりと把握することが大切である。2. 地球や宇宙に関する膨大なデータが日々増加しているが、それらの全てが有効に使われているわけではない。これまで埋もれてははきりとはわからなかったことが、D I A Sで行われるデータ統合によって見えてくるのは、大変重要なステップである」、という二点が特に強調された。また、「今年は7月に北海道洞爺湖G 8サミットが控えており、このサミットでの中心となるテーマは、地球環境問題、気候変動である。D I A Sは、まさに大きな期待のかかったプロジェクトとして、この絶好のタイミングに合わせて、より一層の努力を重ね、有効なシステムの構築に取り組んでほしい」、との期待と励ましの言葉が寄せられた。

4つの特別セッションでは、1. 特定外来生物モニタリングと生物多様性2010目標の実現、2. ジャストインタイム農業がもたらす農業イノベーション、3. 四次元海洋データ同化が拓く持続的な水産資源利用への道、4. 現在と将来の河川管理に貢献する水循環データ統合、のテーマごとに、それぞれ、農業系、海洋系、水循環系の各分野からD I A Sプロジェクトの課題代表者に加え、環境省、農林水産省、水産総合研究センター、国土交通省から専門家に参加いただき、それぞれのパネルディスカッションにて、会場の聴衆と相互に意見交換を行った。

約1時間のポスターセッションでは、各課題グループからデータ収集・品質管理の実現と永続的、体系的な蓄積に関する開発研究、地球観測データの実用化技術開発など、全部で13テーマのポスターが武田ホールのロビーいっぱいに掲示され、D I A Sの研究対象となっている温暖化、気候変化、水循環、生態系システム、農業などの分野で、どのようなデータ統合が現在進んでいるのかの紹介があった。各ポスターの前では、発表者と熱心に質問する参加者との間で活発な意見交流が見られた。

このたびの第2回D I A Sフォーラムを通じて、D I A Sと、環境省、農林水産省、国土交通省をはじめとする省庁機関との連携を一層進め、さらには省庁間をまたいだ協力を深めることで、環境保全や自然災害の軽減、農業生産の向上といった公共的利益に資するシステムの構築を目指し研究開発を進めていくことが再確認された。地球観測データを統融合し、社会にとって意味ある価値を創出するという挑戦が、まさに始まったところである。

○D I A Sについて詳しくお知りになりたい方は、下記のURLをご参照ください。

<http://www.diasjp.org/>



冒頭の挨拶を述べられる小宮山総長



総合科学技術会議 相澤議員



ポスターセッション風景

**本部奨学厚生グループ**

**「東京大学外国人留学生特別奨学制度 および姜裕文奨学基金（東京大学フェローシップ）平成20年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催**

「東京大学外国人留学生特別奨学制度および姜裕文奨学基金（東京大学フェローシップ）平成20年度研究奨励費受給者証書授与式」が、5月20日（火）11:00から、関係役員等の臨席の下に山上会館2階大会議室で開催された。



外国人留学生特別奨学制度は、「大学院における特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組を支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資すること」を目的として、平成16年度に設立されたものである。また、本学卒業生である姜裕文氏からご寄附をいただき昨年度より姜裕文奨学基金（東大フェローシップ）が創設され、本年度は受給者2名が採用された。

本年度4月期は、博士課程学生への経済的支援の充実が図られ、修士課程大学院学生9名、博士課程大学院学生56名、専門職課程大学院学生2名、姜裕文奨学基金は修士課程大学院生2名の合計69名（月額15万円、支給予定期間：平成20年4月から標準修業年限の最終月まで）が受給者として決定され、当日は浅島理事・副学長から各研究科の受給代表者に受給者証書が手渡された。



東京大学外国人留学生特別奨学制度受給者証書授与

次いで、浅島理事・副学長から「多くの応募者の中から選ばれた皆さんは、全教職員が期待しているので、学業や研究において、成果があがるよう努力していただきたい。」旨の挨拶があった。引き続き、受給者を代表して東京大学外国人留学生特別奨学制度採用者の大学院医学系研究科 蓋若瑛さんから感謝のスピーチがあった。

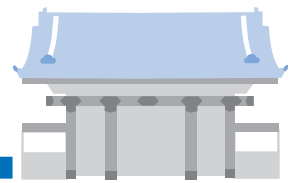


平成20年度研究奨励費受給者代表挨拶

<問い合わせ先>

本部奨学厚生グループ奨学チーム  
内線 22548

## 部局 ニュース



大学院教育学研究科・教育学部

バリアフリー推進室を開設



教育学研究科では、4月1日（火）に赤門総合研究棟2階にバリアフリー推進室を開設した。

本研究科では、平成18年度より教授3名を含む教職員で構成されるバリアフリー支援チームを発足、本学バリアフリー支援室とも密接な連携、協力を図りつつ、バリアフリーに関する意見交換、学習、研究会を継続して実施し、バリアフリーに対する理解を深めてきた。

この度、教育学研究科バリアフリー推進室を設置し、障害者支援を必要とする学生や教職員に対して、より充実した対応ができる体制を整えたものである。

現在のスタッフは、身体教育学、健康教育学、臨床心理学の教授を中心に、附属中等教育学校所属の事務職員を含め、合計7名でバリアフリーの推進に携わっている。



開設したバリアフリー推進室  
(障害のある大学院学生もまじえ、バリアフリー支援について情報交換するスタッフ)

大学院総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎新入居学生の歓迎会行われる



4月12日（土）、三鷹国際学生宿舎において、宿舎生会（宿舎に居住する全学生を構成員とする組織）と院生会（留学生の宿舎生活を支援する大学院生によるチューター組織）の共催により新入居学生の歓迎会が行われた。

歓迎会は宿舎内共用棟での全体パーティーと各居住棟でのパーティーの二部構成で行われた。当日は日本人学生に加え、様々な国籍の留学生も参加し、のべ250名を

越える盛大なパーティーとなった。全体パーティーには、長谷川壽一教養学部副学部長、鈴木英夫三鷹国際学生宿舎運営委員会委員長等の教職員も参加し、新たに入居した新入生を歓迎するとともに宿舎生との交流を楽しんだ。会の中盤には、クイズ大会が行われ、新しく知り合った仲間とチームを組んだ参加者が、ささやかな賞品を目指して真剣に問題に取り組む様子が見られた。



クイズ大会で盛り上がる参加者

第二部では棟ごとに分かれて行われ、各棟ラウンジにてお菓子や飲み物を片手に、同じ建物に住む者同士での交流が図られた。新入生や留学生を中心に各棟 20～30 人の人々が参加し、今後付き合う機会が増えるであろう近所の宿舎生と挨拶を交わす貴重な機会となった。またこの時、更なる交流の促進や連絡系統の確立を主眼として棟ごとにメーリングリストを作成した。この会に参加出来なかった人々にも後日呼びかけ、希望者は登録する運びとなっている。今後この連絡系統を利用した更なる自主的な交流が期待される。21 時頃から始まった 2 次会だが楽しい時間は瞬く間に過ぎ、ラウンジ使用制限時間である 23 時をもって参加者の惜しむ声を背に受けながら幕を下ろした。

三鷹国際学生宿舎は、約 3 割の留学生を含む 600 人近くの学生が生活しており、大規模な歓迎迎パーティーや小規模イベント、普段の生活などを通して活発な国際交流の場となっている。



満員御礼のパーティー会場

分子細胞生物学研究所  
豊島教授、カリフォルニア大バークレー校 Hitchcock Professor に任命される

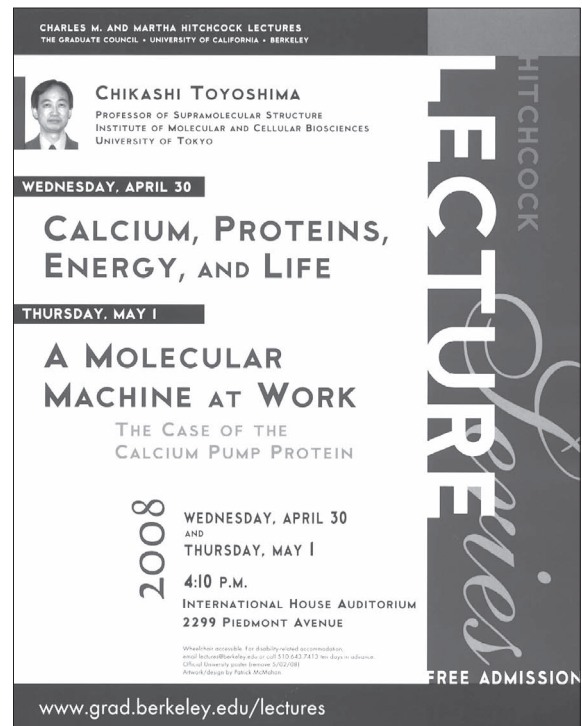
分子細胞生物学研究所生体超高分子研究分野 豊島近教授が、米国・カリフォルニア大学バークレー校の Hitchcock Professor に日本人として初めて任命され、4 月 30 日（水）と 5 月 1 日（木）の両日、"Calcium, Proteins, Energy, and Life" と "A Molecular Machine at Work" という題目で講義を行った。

この Lecture はカリフォルニア大学バークレー校の中でも最も名誉あるもので、過去には、Linus Pauling、Enrico Fermi、Robert Oppenheimer、Stephen Hawking などが講演を行っている。

また、講義の合間に収録されたインタビューは "Conversations With History - Chikashi Toyoshima" というタイトルで、YouTube で配信されている。

YouTube

(<http://www.youtube.com/watch?v=-KOI2bjr2wg>)



バークレー校での講義の告知ポスター

医学部・医学部附属病院  
医学部・医学部附属病院創立 150 周年記念式典、皇太子殿下が御臨席され開催される

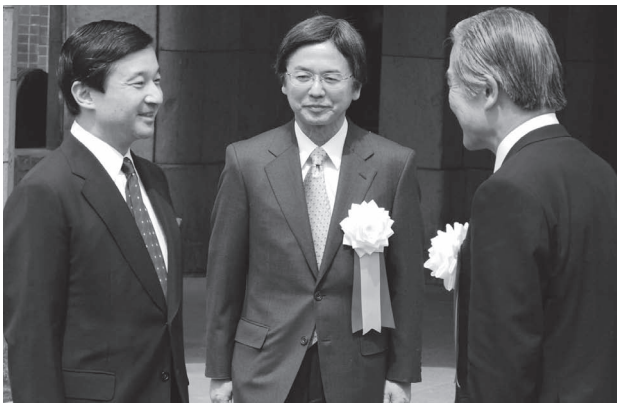
医学部・医学部附属病院は、安政 5 年（1858 年）に神田お玉ヶ池に開設された「種痘所」以来、創立 150 周年を迎え、5 月 9 日（金）、皇太子殿下の御臨席のもと安田講堂で創立 150 周年記念式典が挙行された。



式典はNHK交響楽団(団友会)によるヘンデルの「水上の音楽」が流れる中、14時に開会され、小宮山宏総長、清水孝雄医学系研究科長・医学部長の挨拶に続き、皇太子殿下からお言葉を賜った。その後、来賓のご祝辞、東京大学音楽部コールアカデミーによる「大空と」(東京大学運動会歌 北原白秋作詞)、「鉄門倶楽部ノ歌」の合唱、NHK交響楽団(団友会)による「大学祝典序曲」の演奏が行われた。

記念講演として、本学医学部の卒業生でアレルギーの原因となる免疫グロブリンE(IgE)を発見した石坂公成氏(ラホイヤ・アレルギー免疫研究所名誉所長)による『私が受け継いだ科学者のフィロソフィー』、大江健三郎氏(作家・ノーベル文学賞受賞者)による『「人間らしさ」の現在性』のお話があり、参加者に強い印象を与えた。最後に1,000名を超える参加者が東京大学応援歌「ただ一つ」を合唱して創立150周年を祝った。

式典の後、山上会館で記念祝賀会が開催され、約400名の来賓と卒業生が集い、盛会の裡に終了した。



皇太子殿下御着の様子



式典会場の様子

#### 海洋研究所

海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターにて海洋環境臨海実習が行われる

5月12日(月)から16日(金)にかけて、新領域創成科学研究科の大学院学生を対象とした海洋環境臨海実習が国際沿岸海洋研究センター(岩手県上閉伊郡大槌町)にて行われた。

自然環境学専攻の学生23名が参加した今回の実習では、調査船「弥生」に乗船して行ったCTD観測と採水、CTD観測で得られた水温・塩分のデータ解析と海水の化学分析(溶存酸素)、魚類の体密度測定、砕波帯における仔稚魚の採集とソーティング、ウミタナゴを用いた魚類の外部・内部形態の観察などの実習及び海洋物理環境に関する講義が行われた。期間中はどんよりとした日々が続いたが、予定された実習を全て行うことができた。

いずれの実習も本センターの特色を生かした内容であり、三陸海岸の風光明媚な自然環境の下、参加学生にとってフィールド研究の醍醐味の一端を知るよい機会になったものと思われる。本センター共同利用研究員宿泊所で寝食を共にした合宿生活も参加学生にとっては楽しい経験になったものと思われ、皆大いに満足した様子であった。

なお、この実習は来年度も実施される予定である。



ひょうたん島を背景に調査船「弥生」で実習に出発



仔稚魚の採集実習「地引網」



魚類の体密度測定実習

理学系研究科附属植物園は5月16日（金）から、本学の知的障がい者雇用の一環として知的障がいのある3名とその指導等に当たるコーディネータを採用し、園内の環境整備を開始することになった。

理学系研究科附属植物園は江戸時代に幕府の御薬園であった歴史を含め300年以上の長い歴史を持つ施設であり、本学の附属施設となってからは一般に公開され小石川植物園の名で親しまれてきた。このたび発足したチームは、園内外の清掃業務等を行って美化活動に務めるとともに、地域との連携を図りながら、様々な角度から社会に貢献できるよう活動していく。

この環境整備の導入にあたっては、ハローワーク飯田橋の関係者の皆様や、本学の関係者の皆様のご協力により立ち上げることができたことを深く感謝する。これを機会にして本学の障がい者雇用がますます飛躍することを願うとともに今後、皆様のご指導、ご協力をお願いしたい。



園内職員へ挨拶時の新規職員と邑田園長、杉山先生



附属植物園の正門前にて

5月25日（日）、五月祭でにぎわう情報学環・福武ホールに先端科学技術研究センター（先端研）が不定期で開催しているインテリジェントカフェが「駒場から”臨時出店”し、本郷のUTalk、柏のKサロンと合同で「カフェミックス 2008」が開催された。広く一般の方を対象にしたUTalk、地域密着型のKサロン、主に専門家向けのインテリジェントカフェとその性格は少しずつ異なるが、あるテーマの下に人々が集い飲み物などを片手に語り合うスタイルを串刺しにしてカフェ同士が集うとどうなるだろうか、という試みである。

先端研プロデュースの第一部では澤昭裕教授が聞き手となり、福島智准教授から話を聞いた。会場には盲ろう者である福島准教授が用いている「指点字」の表が全員に配布されていた。澤教授に促された希望者が前に進み差し出された福島准教授の両手に、ゆっくりと自身の名前を打ち込む。大きく発せられる声に、間違いなく伝わったことがわかる瞬間を全来場者が共有する。相互コミュニケーションの成立である。

第二部では、柏の葉アーバンデザインセンターのディレクター丹羽由佳里氏のナビゲートで、Kサロンがいかに地域と大学をつなげ、柏という新しいまちづくりに生かされているかの事例が紹介された。単に大学側からの発信だけでなく、実践からフィードバックというサイクル、すなわちその場にとどまらない相互のコミュニケーションが重要であることが指摘された。

第三部は、総合司会でもある大学院情報学環の佐藤優香特任助教の進行でフロアも含めた全員が参加者となってディスカッションが行われた。その冒頭、山内祐平准教授から、会場となった福武ホールをプロデュースするにあたっての想いについて話を聞いた。併設されているカフェで行われているUTalkは研究者が本学での研究を紹介するだけでなく、参加者とのやり取りを通して自身の研究について新たな気づきや発見をする場にもなっているという。

コミュニケーションの語源は共有することだそうだが、福島准教授は視覚と聴覚を失ったときにコミュニケーション手段を奪われ、自分の存在を確かめることが出来なくなったという。コミュニケートすることが自己の存在確認であるならば、カフェという場で大学もまた、その存在を確認しているのかもしれない、そのためにカフェが求められているのかもしれないという佐藤氏の言葉で三時間に及んだ第一回のカフェミックスは結ばれた。





会場であるスタジオにつながる福武ホール入り口にて。  
看板デザインは進行の一人でもある丹羽氏作



福島准教授の両脇に座る女性は指字通訳者。話の内容だけでなく、会場の雰囲気などの周辺情報も伝えている



最終セッションは来場者全員が輪になって、環になって、和になって。同じ目線でディスカッションを行った

大学院総合文化研究科・教養学部



駒場コミュニケーション・プラザが  
東京建築賞最優秀賞を受賞

社団法人東京都建築士事務所協会が主催する第34回建築作品コンクール（東京建築賞）において、「東京大学駒場コミュニケーション・プラザ（以下「コミュニケー

ション・プラザ」と略記）」（設計：鹿島建設一級建築士事務所、類設計室）が最優秀賞を受賞した。

今回の東京建築賞は、関東・甲信越に建設された作品等（建築物及びリフォーム、インテリア、ランドスケープ、街並み景観などを含む）で2005年1月から2006年12月に竣工したものを対象とし、4部門で計46件の応募があった。

一次審査を通過した24件を対象に現地審査が行われた。本建物については、4月21日（月）に実施され、「コミュニケーション・プラザ」は、4部門の内、3000平米以上の一般建築を対象とする「一般部門二類」で表記の受賞となり、5月26日（月）にヒルトン東京で授賞式が行われた。

ところで、「コミュニケーション・プラザ」の計画地は旧駒場寮跡地であり、その計画は少なくとも1993年まで遡る。本学は、老朽化した学寮の整備とキャンパスの有効利用を考慮し、旧駒場寮の学寮機能を三鷹国際学生宿舎に統合移転することとし、跡地にCCCL（center for creative campus life）計画が構想され、1995年に旧駒場寮の廃寮が告示された。廃寮については、旧駒場寮の伝統に配慮することはもちろん、一部の反対学生とも粘り強く話し合いを重ね、寮機能以外の学生生活の継承に努めた。その結果、当該敷地には、1998年にキャンパスプラザ・サークル棟に加えて、旧寮食堂の一部である食堂北ホールの代替としてキャンパスプラザ・多目的ホールが完成。2002年には図書館の移転が先行する。「コミュニケーション・プラザ」は先行する図書館や多目的ホールと一体となって、CCCL計画の中核となる施設として構想された。その具体的な建築計画案作成は2001年の旧駒場寮取り壊し直後から駒場キャンパス計画室が中心となって始まり、2002年には、原案が作成され、学内にパブリック・コメントを求めた。パブリック・コメントを受けて、2003年に二次案が作成され、以降、学生説明会を繰り返し実施し、学生に意見を求めつつ計画案の改良に努めた。このように、本計画の構想の背景には、長年にわたる関係者のさまざまな形での努力がある。

その後、本事業はPFI事業として実施されることとなり、2004年に実施方針が出され、「要求水準書」と呼ばれる仕様書が作成され、事業者を募った。最終的に鹿島建設を中心とするグループが事業者を選定された。鹿島建設グループ案は、「ダイニング・ストリート」と呼ばれる南西側からクランク状の図書館へのアプローチを新たに創出するなど、限られた予算で、「要求水準書」における構想をいっそう進化させ、高い水準の建築を高度な施工技術で実現させている。

さて、「要求水準書」作成に携わった立場から本計画の特徴を述べるなら、本計画は、駒場キャンパスの遺産を次世代に発展的に継承するものであり、広義の「サステイナブル」と考えられる。それは3点から構成される。まず、歴史的遺産の継承である。本計画では、旧制第一高等学校に遡る駒場キャンパスや旧駒場寮の歴史を記憶に留めるため、寮のエントランスの一部をモニュメント

として残すだけでなく、寮の柱跡に照明を配置して記憶の継承が図られている。次に自然遺産の継承である。全体として地形を活かしながら、既存樹木を生かすと共に、これらに連携した植栽を施すことで、自然遺産の継承に努めた。最後に、旧制第一高等学校以来続けられてきた諸活動の継承である。具体的には、各種のサークル活動に代表される学生を主体とする「自主的な学び」の継承である。また、寮祭などを通じて行われてきた近隣社会との連携や同窓会を初めとする OB との連携も継承されている。

以上に述べた広義の「継承」が審査評にあるような「キャンパス内の豊かな緑と、東に向かって緩やかに下る地形の変化を、より一段と感じ取れるようにし」、「軽快な現代デザインの建築にキャンパスの記憶を取り込みつつ、良質な大学施設とキャンパス空間を作り上げること」の成功につながったと考える。



銀杏並木からエントランス・ゲートへ



延伸された銀杏並木と一体化された中庭

大学院教育学研究科・教育学部

東京大学教育学部附属中等教育学校  
部局 創立 60 周年記念式典、行われる

5月29日(木) 14:30～16:30まで安田講堂において、「東京大学教育学部附属中等教育学校創立60周年記念式典」が開催された。雨のなか来賓、附属学校教職員・生徒、

招待者あわせて約1100名が式典に参列した。来賓には、文部科学省事務次官銭谷眞美氏、中野区長田中大輔氏、文部科学省大臣官房審議官初等中等教育局担当布村幸彦氏、文部科学省高等教育局専門教育課長藤原章夫氏をお迎えした。

開式の辞を三橋俊夫副校長が述べたあと、在校生の学生歌合唱が行われた。南風原朝和学校長は、挨拶で「附属学校は、筋金入りの中高一貫教育を行っており、今日の式典でその歴史と伝統を振り返り、自覚を深め、誇りを高めていってもらいたい」と述べた。小宮山宏総長は、「4年前に附属で自ら“地球持続の技術”の授業を行うなど、高・大連携によって知的財産を活かしている。連帯と協調を大切にして、他者を感じる力を培い、時代の先頭に立つ教育の実践に期待している」と挨拶された。銭谷眞美文部科学省事務次官は、「中高一貫教育の特色を活かし、実践的な力の育成を行い、東京大学全学の連携をもとに、子どもたちの生きる力を伸ばす“知の総合学習”を実現させており、豊かな人生を生きるための基礎づくり、社会に真に貢献できる人間の育成という教育の本質を追求している学校である」と評価し、「今後の発展を期待している」と述べた。金子元久教育学研究科・教育学部長は、「附属学校は、初等教育と高等教育をつなぐ結節点であること。そこで自分の力で考え、調べていくことで意味付けをし、おもしろいことであると実感すること。先端的な研究を初等・中等教育の学校に結びつけるという新しい教育の試みに参加する役割を附属学校が担っている」と述べた。

つぎに、60周年記念歌「われらは未来の掛け橋」の作詞者きむらけん氏(附属学校元国語科教諭)、作曲者田中敦氏(附属学校44回生)が記念歌への想いを語った。そして、4年生(60回生)全員によって記念歌が披露された。つづいて、学校紹介のスライド上映、管弦楽部による演奏、卒業生挨拶(14回生篠晋一郎氏)が行われ、生徒代表挨拶では、生徒会長(59回生)赤迫寛さんが「生徒が先生を信頼し、先生が生徒を信頼する関係で、個を尊重している学校であること」を述べた。

夕方からは、山上会館で「祝賀会」が行われた。



「60周年記念歌」を合唱する60回生



5月22日（木）18時から、山上会館1階談話ホールにて法学政治学研究科総合法政専攻の新入生歓迎会および法学政治学研究科による外国人留学生等との懇談会が合同で開催された。

ゲストの学生、客員研究員、日本人学生チューター、教職員等、総勢119名が出席し、非常に熱気あふれるパーティーになった。

藤原帰一教授（法学政治学研究科総合法政専攻長）の司会進行で、井上正仁法学政治学研究科長の挨拶、神田秀樹法学政治学研究科副科長による乾杯の後、歓談に入った。

宴たけなわになった頃、学生を代表して総合法政専攻博士課程1年生の小浜祥子さんが、研究を進める上での自身の心構えを話した。次に、総合法政専攻外国人研究生のアリキサンドル・ニコラスさん（オーストラリア出身）が、高校時代の日本留学体験を語った。最後に、法曹養成専攻専門職学位課程1年生の陳瑩さん（中国出身）が、日本留学秘話を披露した。3人ともユーモアをまじえた巧みな話術で会場中をわかせた。

普段は研究活動に忙しい学生たちだが、この日ばかりは教員や友人と大いに親睦を深め、和やかな雰囲気のなか20時に散会した。



研究科長、専攻長と発表者たち



小浜 祥子さん



アリキサンドル・ニコラスさん



陳 瑩さん

## キャンパス ニュース



### 本部学務グループ



平成20年5月1日現在学生数  
一学部学生14,085人、大学院学生  
13,732人、研究生等809人

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年5月1日現在の学生数は次のとおりである。

平成 20 年 5 月 1 日現在学部学生・研究生・聴講生数調

種別 入進学 年度別	在籍者																在籍者のうち、 外国人学生及び休学者 (再掲)						研究生			研究生のうち 外国人 (再掲)			聴講生		
	平成 20 年度		平成 19 年度		平成 18 年度 (以前)		平成 17 年度		平成 16 年度 以前		小計		合計		外国人学生		休学者		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	2,568	594	2,554	582	339	40					5,461	1,216	6,677	138	57	195	23	7	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
前期課程・教養学部	321	115	329	101	181	35				831	251	1,082	10	9	19	23	6	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
法学部	85	15	83	17	80	22	87	16	20	4	355	74	429	3	0	3	10	3	13	28	23	51	0	1	1	-	-	-	-		
医 健康科学・看護学科	9	13	9	17	1	7				19	37	56	0	0	0	0	1	1													
工学部	855	96	877	76	142	7				1,874	179	2,053	63	16	79	28	2	30	25	7	32	8	5	13	9	0	9				
文学部	213	116	223	132	113	45				549	293	842	6	5	11	24	18	42	3	5	8	0	0	0	-	-	-	-	-		
理学部	264	28	282	36	36	3				582	67	649	13	6	19	9	0	9	0	0	0	0	0	0	6	2	8				
農学部	200	60	191	62	18	4				409	126	535	6	3	9	5	1	6	13	4	17	3	0	3	0	0	0				
	18	16	20	11	22	10	18	12	1	79	49	128	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-		
経済学部	301	71	307	54	84	13				692	138	830	11	8	19	15	5	20	-	-	-	-	-	-	2	0	2				
教養学部	101	56	111	54	49	23				261	133	394	8	6	14	18	12	30	5	4	9	0	0	0	10	12	22				
教育学部	64	42	71	37	16	3				151	82	233	2	2	4	3	1	4	3	2	5	0	0	0	-	-	-	-	-		
薬学部	68	17	59	31	2					129	48	177	5	2	7	1	0	1	2	4	6	0	1	1	0	1	1				
小計	2,499	645	2,562	628	744	172	105	28	21	4	5,931	1,477	7,408	128	58	186	136	49	185	79	49	128	11	7	18	41	20	61			
合計	5,067	1,239	5,116	1,210	1,083	212	105	28	21	4	11,392	2,693	14,085	266	115	381	159	56	215	79	49	128	11	7	18	41	20	61			

備考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。

2. 平成 18 年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部医学科・農学部獣医学課程は平成 18 年度入進学者のみ、他の学部学科は平成 18 年度以前の入進学者を示す。





## 起業支援プログラム「UTEC EIR」が通年募集開始！ サマー・ジョブ・プログラム「UTECサーチ」がスタート！

(株)東京大学エッジキャピタル (UTEC) は、本学における研究の成果等を社会に還元する試みを一層促進させることを目的として、“UTEC EIR”と“UTECサーチ”という、2つのプログラムを実施しています。

“UTEC EIR (Entrepreneurs In Residence)” は、本学の「知」を活用して1年以内の事業化に結びつける意欲と構想をお持ちの本学関係者の方を対象に、それぞれの事業構想の個別具体的な状況に応じてご支援させて頂く、起業支援プログラムです。最大1,000万円までの支援をさせて頂くのみならず、東京大学アントレプレナープラザを活用したインキュベーションスペースの提供や、事業計画立案に向けたアドバイスを含め、柔軟な支援・方策をご用意しています。昨年度は、2007年10月から2008年2月までの5ヶ月間で18件のご応募を頂き、2件を採択致しました（1件は支援内容を調整中）。ご要望多数につき、本年度より通年での募集（2008年6月30日（月）、2008年10月31日（金）、2009年3月31日（火）の3回が募集期限）を開始しています。

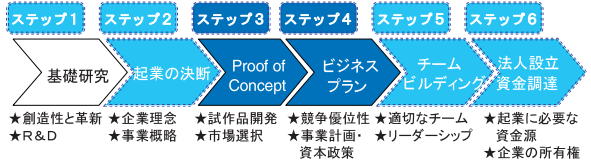


2007年度UTECサーチ勉強会の様子

また、昨年に引き続き本学に在籍する大学院生、学部学生の皆さんを対象に、サマー・ジョブ・プログラムとして“UTECサーチ”を行います。UTECサーチとは、4000人以上の研究者を擁する本学の中から、ベンチャーを通じて東京大学の「知」を社会に還元するのに適した研究成果、またはアイデアを発掘し、それらを活用した事業計画を立案するというプログラムです。具体的には、UTECサーチの参加者にベンチャーキャピタリスト候補（サマー・アソシエイト）として、UTECの投資委員会メンバーに対して投資提案のプレゼンテーションを行っていただきます。UTECサーチは、事業化に結びつく東京大学の技術シーズを発掘したいという意欲をお持ちの方／友人や先輩のアイデアを実用化したいという意欲をお持ちの方／将来、起業することも視野に入れており、ベンチャーキャピタルの投資決定プロセスを理解したい方にお薦めのプログラムです。これらのプロジェクトにご興味をお持ちの方は是非ともUTECホームページをご覧ください。

### UTEC

UTECは、事業化の可能性を検討するステップ2の段階から、東京大学の研究者・学生・卒業生のパートナーとして、起業・事業化に関するあらゆる相談に応じます。



### “UTEC EIRプログラム”を活用した総合的支援

UTEC EIRのコンセプト

## 第4期アントレプレナー道場にて第1～3期のOB・OGが講演

5月14日（水）19時より経済学研究科棟地下第1教室にて、第4期アントレプレナー道場（学生起業家育成プログラム：以下「アントレ道場」）の第3回目の初級コースの勉強会が開催されました。アントレ道場の第1～3期生の卒業生（最終審査発表会進出チーム学生）が、アントレ道場の経験を語りました。それぞれ20分間の講演では、ビジネスプランの見つけ方、メンター（上級コースで学生チームの指導にあたる社会人）との出会いの素晴らしさ、合宿の楽しさ、最終審査発表会までの道のりなど、失敗談、成功談を交えて、4人の卒業生が熱弁をふるいました。卒業生からは「起業する・しないに拘わらず、アントレ道場に参加した経験（チームでの共同作業、人脈づくり、プレゼンテーション・スキルアップなど）は、社会人になって必ずためになる」との声があがりました。

最後の質疑応答では、第4期参加学生と卒業生との活発な意見交換が行われました。



写真左から、板谷俊輔さん（第1期卒業生、(株)ドリームインキュベータ）、片岡宏隆さん（第2期卒業生、(株)ベネッセコーポレーション）、吉川淳史さん（第3期卒業生、日本震災パートナーズ(株)）、平井祐理さん（第3期卒業生、大学院新領域創成科学研究科修士2年）、司会の各務茂夫（産学連携本部事業化推進部長/教授）。

連絡先：産学連携本部（本部産学連携グループ）電話：内線22857  
（外線03-5841-2857）WEBページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索



「さすてなTimes」  
第2弾!

# サステナな日々

～キャンパスから考えるサステナビリティ～  
vol. 7

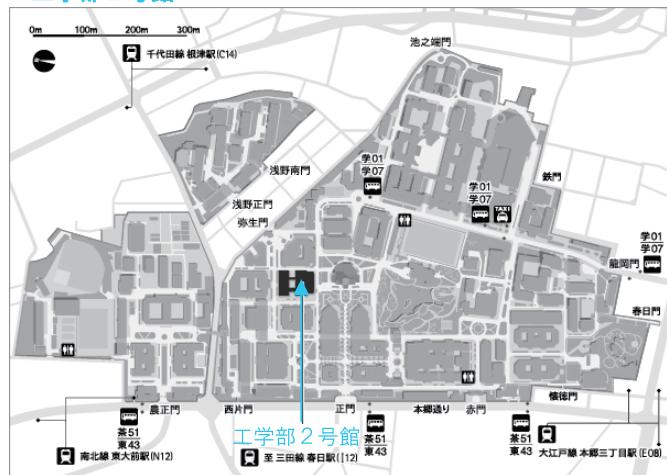
## 環境にやさしいグリーン・ビルディングを巡る、 サステナ的キャンパスツアー(本郷・柏キャンパス編)

今年の入学式の式辞の中で小宮山総長は、大学の主なキャンパス全体で2012年までにCO<sub>2</sub>排出量を15%減らし、2030年までには50%減らすことを宣言しました。これを受け、次号の学内広報では本コラムのページを拡大し、本格的に始まった「東大サステナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)」について特集する予定です。

このプロジェクトの一環として、工学部2号館を対象に産学官連携の省エネ共同研究を行う「グリーン東大工学部プロジェクト」や、学生も参画する駒場学生会館のエコ改修などの計画が進められつつあります。今号ではこれに先駆けて環境や省エネなどに配慮して建てられた、いわゆるグリーン・ビルディングを一部ご紹介します。題して「サステナ的キャンパスツアー」、いざ出発!

### ～其の壱 本郷キャンパス編～

#### ■ 工学部2号館

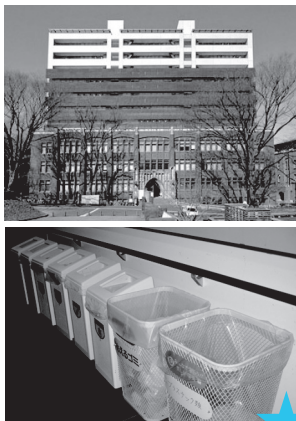


まずご紹介するのは、グリーン東大工学部プロジェクトの舞台でもある工学部2号館です。工学部2号館は、リノベーションによって古いものと新しいものが融合しているというまさにサステナブルな建物です。

旧2号館部分は1924年(大正13年)に完成しました。こちらは安田講堂の建築も手がけた建築家内田祥三氏(東京帝国大学第14代総長)が、構内で初めて設計した建物だそうです。2005年、施設拡充要求に応える増築計画に伴い、旧館の上部に覆いかぶさるようにして新館が建設されました。

昼光を取り入れられたり、廊下の照明には人感センサーが付いているなど、省エネ対策も進んでいます。

ゴミの分別も徹底されています→



### サステナ(サステナビリティ; 持続可能性)とは?

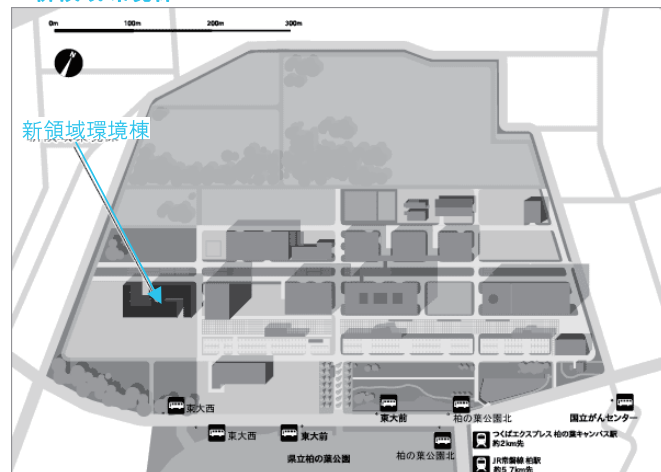
環境の世紀と呼ばれる21世紀の科学技術、経済システムを語る最重要のキーワード。地球社会を持続可能なものへと導くビジョンを構築するための基礎となる新しい超学的な学術が「サステナビリティ学」(sustainability science)である。

サステナビリティ学連携研究機構(IR3S) HPより  
<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/top.html>

このコラムは、サステナビリティ学を個人のライフスタイルやキャンパスと結びつけることを目指しています。

### ～其の弐 柏キャンパス編～

#### ■ 新領域環境棟



柏キャンパスからは、大学院新領域創成科学研究科環境学研究系の専攻が入っている環境棟をご紹介します。地上7階、地下1階建てで、2006年3月に竣工しました。地図ではわかりづらいですが、上から見るとS字型の造りです。このS字型の造りは、限られた面積の中で、外気との接触面積を増やすなどの効果をもたらしているそうです。

その他、リサイクル材の使用や各方位の日射特性を考慮して使い分けられている外壁のルーバー、太陽光や自然換気などの自然エネルギーの活用といった工夫が随所に施され、環境への影響を最小限にすると共に、コスト削減も実現しています。また、トイレ・廊下の人感センサーはもちろんのこと、各フロアの温度・湿度のモニタリング、自己発電式自動水栓(トイレ洗面台)、照度調整機能付き照明(実験室)などの省エネ技術を駆使しています。

これらの効果は既に実証済みで、『東京大学環境安全報告書2007』によると、環境棟の2006年度の電力消費量は、柏キャンパスの他の4棟に比べて低く抑えられたとのこと。

なお、このように本学の知的資源を最大限活用して建てられた環境棟は、学外でも高く評価され、日本建築家協会の環境建築賞優秀賞や千葉県建築文化賞も受賞しています。

<http://www.k.u-tokyo.ac.jp/news/200711jia-ohno.html>

変化し続ける東大キャンパス。今後はこのようなグリーン・ビルディングがさらに増えていくことでしょうか。天気の良い日、あなたもグリーン・ビルディングを探しに構内を散策してみませんか?

問い合わせ先: 本部研究機構等支援グループ(内線21387)



屋上緑化中。こちらはセイネ↑



## ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No. 7



### 東大ナビでイベントを取材!



今年度より、東大ナビでは学内の教育イベント紹介にとどまらず、主催者にご協力を頂けるイベントに限り、実際にイベントに出かけ取材をし、会場の様子や内容を紹介する取り組みを始めます!

#### ■教育イベントを取材します!

ご了解を頂いた主催者の方々と協議の上、東大ナビの学生スタッフがイベントに伺い、取材をします。

#### ■東大ナビ上でレビュー記事を載せます!

後日主催者の方々と連絡を取り合いながら、イベントの様子や参加したスタッフからの感想など、教育イベントをより深く紹介する記事を写真なども交えて掲載します。

このような記事を掲載することで、定期的開催するイベントなどでは、前回のレビュー記事からイベントの様子を知ることができるなど、イベントの紹介からのみでは窺い知れない情報から、更に参加者を集められることも期待できます。

またご希望に応じて、東大ナビスタッフが他の参加者に感想を聞くなどして、参加者からのフィードバックをお返しすることもできます。さらには、イベント中に携帯電話を使ったアンケートを行うなど、東大ナビのシステムを有効活用したイベント内でのお手伝いも可能です。

学生のみならず、多くの方々が肌身離さずお持ちの携帯電話。イベント告知にとどまらず、皆様のアイデアも頂きながら、東大ナビを教育イベント運営に役立てて頂ければ幸いです!

**東大ナビでは、教育イベントの取材をお受け頂ける方を募集しております。**

**ご協力頂ける方々、是非下記までお問い合わせ下さい!**

- 教育企画室TREEオフィス内線; 27823 (重田)
- メール; info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス; 本郷キャンパス 第二本部棟401号室



### 「東大人」リニューアル!

東大ナビでは携帯サイトにて、学内外で活躍する学生にスポットを当てた特集「東大人」を隔週で連載しています。

これまで「東大人」では学内で活躍している学生の皆様を中心に取り上げてきましたが、今月からは3年生への進学振り分けを踏まえ、3、4年生の視点から見た学部・学科の紹介を始めます! 特に1、2年生の学生の方々に役立つ情報にしていきたいと考えておりますので、今後とも是非ご注目下さい!

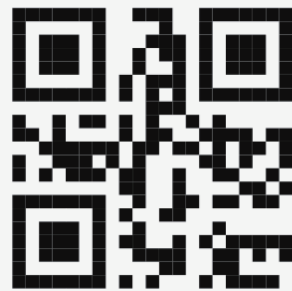


### 東大ナビとは?

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください!



## 東大ナビ はじまる

ケータイでお得なイベント情報をGET!

詳しくは utnav.jp にアクセス。  
または mail@utnav.jp に空メール!

東京大学 教育企画室



### イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jp に空メール送信!

- この記事のQRコードから
  - mail@utnav.jp宛てにメール送信
  - 携帯サイト utnav.jp にアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能



返信メールから登録画面に入力!

- ご所属
- 性別・年齢など



登録完了!

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



### イベントを宣伝したい方

教育企画室TREEオフィスまで!

- 内線; 27823 (重田)
- メール; info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス; 本郷キャンパス 第二本部棟401号室



## ワタシのオシゴト / 第28回

Rings around the UT

社会科学研究所図書チーム

前田 朗さん

## 立ち読みの誘惑をこらえながら...

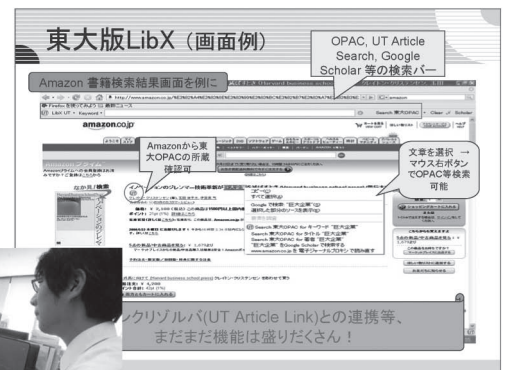


日々、資料をかかえています

私の仕事は主に社会科学研究所図書室における和雑誌と政府や機関の刊行物の管理です。図書チームの方々と、(つい立ち読みしたくなるような)社会科学系資料に囲まれて日々を過ごしています。図書室では耐震工事に伴い資料を避難する予定。いまその準備も進めているところです。

変わったところでは情報基盤センターから委嘱を受け、「図書系のためのアプリケーション開発講習会」の講師代表も務めています。この講習会では、受講生各自が「図書館にあったらいいな」と思ったツールを、企画・実装・ものによってはWeb上で公開(!)してしまいます。講師役は受講生の企画の方向性や技術的な相談に随時乗るのが、そして声援を送るのがお仕事。

「夢のある話はノリがよくなければ!」とばかりに、毎回気合を入れて定例会資料を作成しているのであります。



受講生の成果のひとつ(Web公開中)について打合せ資料を作成中!

得意ワザ:ミカンを片手でむけます(上級バージョンもあり)

自分の性格:おとなしめ

次回執筆者のご指名:富善一敏さん

次回執筆者との関係:「日本アーカイブズ学会」の

事務局(富善氏)と平会員(な私)

一言紹介:世間話をする、とてもなごめるかたです

## インテリターズ・バイブル

vol. 13



科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インテリター養成プログラム

## インテリターの意義

村上 陽一郎

科学技術インテリター養成プログラム特任教授

大学というのも変わったものである。私は昭和三十二年に駒場に入學し、大学院までずっとこのキャンパスで過ごした。昭和四十八年に助教授として赴任、平成元年に、駒場第二キャンパスの「先端研」に移って平成七年に退職した。学部時代には「学内広報」の委員会の責任者も務めた。しかし、当時は、停年退職者が教壇に立つことは厳しく制限され、かつて学長だった茅誠司氏をオムニバス講義のなかの一コマだけ担当していただくとした際には、大きな抵抗があった。今は七十一歳になった私が、特任として、とにかく、この古巣の教壇に立ち、こうして学内広報に原稿を寄せる事態にもなっている。不思議の感を免れない。

<interpreter>と<translate(o)r>という英単語は微妙に違う。もちろん重なり合う意味もあるが、例えば演奏家が楽譜を音にすると、<interpret>という動詞は使えるが、<translate>とは通常言わないだろう。<interpret>には、自己の創造的な解釈が含まれ得る。科学・技術の場合、どうなのか。

要はこういうことだ。現在科学や技術(特に工学)の専門家にとっては、レフェリー付きの論文を書くことが、最も重要な仕事である。つまり自分の研究に関するコミュニケーションは、いわゆる「ピア」、それも、ある特定の傾向を備えたレフェリーとの間でのみ成り立つことが期待され、実際の関心も、そこにしかないのが普通である。ところが、近年のように、研究が巨額の費用を必要とするようになり、いわゆる(財政的)「アカウントビリティ」が研究者に求められるようになると、それだけで、特定のレフェリーはおろか、ピアでさえなく、全くの門外漢にまで、自分の研究の説明ができ、コミュニケーションを成り立たせる必要性が生じる。その上、民主主義社会では、専門家のみによって意志決定が行われることへの批判を無視できない。

現在準備中の裁判員制度も、同じ基盤に由来するものだが、科学・技術においてこのような状況は極めて重要な意味を持つ。メディアエイトーと言えば紛争解決(たとえばADR=法定外での紛争解決)の役割が主となるが、科学・技術にもそうしたメディアエイトーも必要だが、本コースの主たる目的は、専門家のコミュニケーション能力の練磨にある。手探りのところも多いが、今後の日本社会のために、できることがあれば、と老骨に鞭打つ日々である。

★科学技術インテリター養成プログラム

URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>



噴水

### ■五月祭大変盛り上がりました!!

#### ■「ドクターアミノ・大谷先生トークイベント」

5月24日(土)は先月号でもお知らせしていた、東大サプリメントの開発者・大谷勝客員教授(大学院新領域創成科学研究科)にお越し頂き、トークイベントを開催しました。大谷先生のサイン会も好評で、多くのお客様にお喜び頂きました。午前中の短い時間ではありましたが、大変盛況で、幸先の良い五月祭の幕開けとなりました!



#### ■「ウッドデッキでの出店」

初日は天気が良かったので、お店の前のデッキでも商品紹介をしました。店内は本当に沢山のお客様で溢れかえっていたので、ゆっくりスタッフとお客様のコミュニケーションがとれる良い場所になりました。他のテント出店をしていた学生さんの活躍ぶりも見ることができ、UTCCスタッフもいつも以上にはつらつとしていました!!



#### ■「五月祭での人気商品」

普段、イベントでは研究成果商品よりもステーションナリー類のほうが人気があるのですが、五月祭ではお客様とスタッフがとても密にコミュニケーションをとれていたためか、研究成果商品(御酒・アミノ酸・香水・光触媒シート)が非常に人気でした。まだまだ、コミュニケーションセンターの商品をご存じない方も多々いらっしゃると思いますので、今回のイベントを機に、さらにお客様とのコミュニケーションを高めていけたら、とスタッフ一同感じました。今後もさらに素敵なお店作りを目指します!!

(担当: コミュニケーションセンター 山下)

### 教育学部附属中等教育学校、第8回高校生の意見発表会でメッセージ賞受賞

3月20日(木)跡見学園中学校高等学校・小講堂で開催された「第8回高校生の意見発表会」において、「高校生活で学んだこと」について本校6年生の戸田匠君が発表を行い、メッセージ賞を受賞した。

この発表会は、都立・国立・私立の高校生がつどい、「見て・聞いて・感じて 私の経験・私の提案」をテーマに、発表することで自信を深め、表現能力を培い、プレゼンテーション技能を高めることを目的としている。戸田君は、水泳部のキャプテンであり、本校の1年生の富浦臨海学校を立ち上げたときから水泳指導補助員として行事を支えている。

発表では、夏合宿で後輩が辛い練習に苦しんでいるときに、陰で励まし、合宿が終わったあと、後輩から感謝の気持ちを伝えられときの嬉しさを話してくれた。そして、6年間で得た、教員・部員との関係から学んだことを将来に生かしていきたいと希望を語った。

審査委員長の日本大学教授の渡部淳先生は、「水泳部キャプテンとして、後輩の成長の喜びを感じるなど、リーダーとしてのよい経験をしたことのスピーチで、素晴らしかった」と講評を述べた。



東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

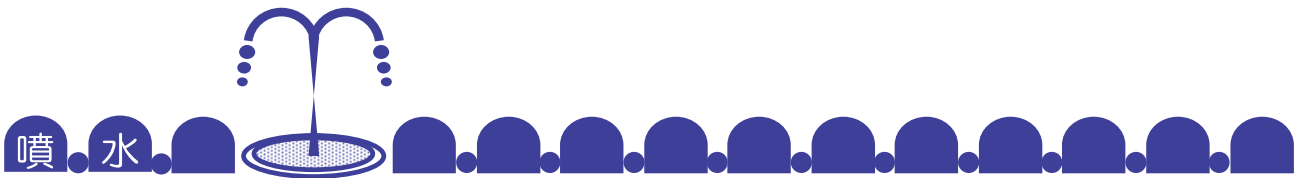
The University of Tokyo

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30

電話: 03-5841-1039

<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>





大学院教育学研究科・教育学部

## 教育学部附属中等教育学校で「学びの共同体」研究会行われる

5月8日（木）13:10～15:30まで教育学部附属中等教育学校新教育棟の多目的室において、2008年度第1回目の「学びの共同体」研究会が行われた。附属学校では、2005年度から「学びの共同体」づくりをはじめている。

校内の教職員41人と校外からの参加者約7名の計48名で行われた。授業は、1年C組（40名）で、技術科「計測技術入門」（授業者、峯岸努教諭）であった。

導入で製材（原料から材料を作る）・加工（材料から製品を作る）の概念を生徒に発問しながら理解させた。そして、加工して製品を作るために必要な「計測」の方法を学ぶ授業が展開された。1年生は、4月28日（月）に総合学習入門の授業で、「東大探検」（本郷キャンパス）を行っている。そこでは、歩測や目測で「大体いくら」と長さや高さを測ればよかったが、ここでは、「正確に」測ることが求められた。

4人1組の各グループに「差し金・鋼尺・ノギス・

マイクロメータ」が用意された。4種類の道具を駆使して、①技術の教科書の厚み②電子部品の銀の足の長さ、足の太さ③銀の棒の外側、内側の太さ④糸の太さを正確に計測した。峯岸教諭は道具の使い方は説明せずに生徒たちに「いじくりまわして」、使い方を発見させるように導いた。生徒たちは、与えられた時間を計測に夢中になっていた。

富士市立吉原第一中学校の先生は、「入学して間もないのに、よい関係ができています。熱心に計っていたのを、先生が時間を制限したり声かけをして生徒たちの活動を止めてしまうことをしなかったのはよかった」と感想を述べた。

指導助言者の大学院教育学研究科の佐藤学教授は「良いスタートができています。峯岸先生の子どもの関わり方がよい。導入で用語の概念がすっきりと整理され、構造化されていた。道具を「いじくりまわし」、たっぷり触れさせることで、生徒たちを道具になじませ、技の世界へ導いた」と指摘し、クラス全体をあれだけ夢中にさせた素敵なお授業だったと述べた。

今年度の「学びの共同体」研究会は、7月2日（水）、10月27日（月）、2009年1月30日（金）、また、全校での「公開研究会」は、2009年2月14日（土）を予定している。



授業の様子



授業検討会の様子



## 教育学部附属中等教育学校で 遠足実施される

5月2日（金）、附属学校では、遠足の日でした。実施は、1年生から4年生までの学年です。各学年の内容は、1年生が川井キャンプ場での飯盒炊事で、2年生が玉川上水（羽村の堰から三鷹駅まで）を歩き、3年生が金沢文庫から鎌倉までを歩き、4年生が横浜市内（博物館、庭園）めぐりでした。

例年、遠足は学年ごとに企画され、各学年の目標に沿って、目的地の選定や方法が決まります。協力や計画性を促すもの、達成感を持たせることを意図したもの、新しいクラス作りを目的にしたものなど、環境の変化や生徒の成長に合わせた取り組みが用意されます。

4年生は、来年度は指導学年です。生徒たちは、銀杏祭（文化祭）、体育祭など、多くの学校行事の企画を任せられます。今回の遠足では、生徒たちによる実行企画組織（遠足実行委員）が、目標設定、候補地選定、1日の行程のデザインなどを決めました。実施踏査は、4月初旬に教員とともに行いました。また、市内でのグループ行動では、グループごとにコースを企画します。しおり作成までは約3か月かかりました。横浜はマリタイムミュージアム、神奈川県立歴史博物館、横浜開港資料館、港の見える丘公園など、見所は満載でした。歴史の学習にも最適です。当日、遠足も終わりに近づいた頃、「先生、問題はありますか」と実行委員長が心配をしていました。責任感の強さを感じます。あいにく、この日は雨の中の遠足となりましたが、生徒たちには貴重な時間でした。



鎌倉遠足での4年生の様子

## 教育学部附属中等教育学校で 体育祭が行われる

5月17日（土）8時30分から16時まで、教育学部附属中等教育学校で、体育祭が開催された。天候にも恵まれ絶好の体育祭日和であった。

開会式が終わると応援合戦である。これまで早朝そして放課後遅くまで残って練習したダンスを応援団が披露した。それぞれが独創的でよく工夫されており、優勝の意気込みが感じられた。

競技では特に、騎馬戦の迫力が目立った。女子は他の組の騎馬のサンバイザーを取り合う形で、チームを組んで取りに行く戦略的な一面も見られた。男子は1対1での崩し合いであり、学年が上がるごとにその迫力が増していった。

体育祭の運営や競技の進行は、体育祭実行委員を中心とした生徒で進められた。また、係についても当日の仕事は当然ながら、係の仕事の内容伝達や分担表作成にいたるまで、ほぼすべてのことを生徒自身がおこなった。午後になり進行に遅れが生じてきた際にも、そのことを感じた生徒が声を掛け合い進行を早める工夫をしていた。

教師主体ではなく生徒が自ら考え行動することで、生徒自らが成長でき、そして達成感が味わえる。そんな体育祭であった。



迫力があつた騎馬戦の様子



# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

大学院法学政治学研究科・法学部

#### COE「先進国における《政策システム》の創出」シンポジウムのお知らせ

東京大学 21 世紀 COE プログラム「先進国における《政策システム》の創出：比較政策システム・シナジー・コアの構築」（2003～2007 年度）は、5 年間の研究活動の一応のまとめとして、「政治空間の変容と政策革新」と題した 6 巻本シリーズを東京大学出版会から刊行中です。このたび、研究成果の一端を広く皆様にご紹介し、ご批判を仰ぐため、下記の要領でシンポジウムを開催いたします。このシンポジウムでは、COE 側から「政治空間の変容と政策革新」シリーズの内容を中心にご報告し、ゲスト・コメンテーターからコメントをいただくとともに、ご来場の皆様とも実りある討論の機会にしたいと希望しております。

シンポジウムに参加をご希望の方は、氏名、所属、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、日鉄技術情報センター「COE シンポジウム係」までメールまたはファクスにてお申し込みください。

E-mail: coesympo@jatis.jp  
FAX: 03-3275-9909

シンポジウムについてのお問い合わせは、東京大学法学部 COE 事務局をお願いします。

E-mail: coe-ps@j.u-tokyo.ac.jp  
TEL 03-5841-1516  
FAX 03-5841-3174

日時 6月28日(土)  
13:30～17:40(開場 13:00)  
場所 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー 6 階

東京ステーションホテルコンファレンス 602  
TEL 03-6888-8080  
URL <http://www.tstc.jp/>

### <プログラム>

#### 【COE の紹介】

高橋進 (東京大学、COE 拠点リーダー)

#### 【報告】

- ・理論、科学技術 城山英明 (東京大学)
- ・EU 平島健司 (東京大学)
- ・地方分権 金井利之 (東京大学)
- ・政権交代 高橋進 (東京大学)
- ・メディア 谷口将紀 (東京大学)

#### 【コメント】

佐々木毅 (学習院大学、前東大総長)

山口二郎 (北海道大学)

#### 【討論】

### シンポジウム・講演会

総括プロジェクト機構

#### 「水の知」(サントリー) 総括寄付講座設立記念シンポジウム～水の世紀に立ち向かう政府・市民・企業と大学～のご案内

本学に「水の知」(サントリー) 総括寄付講座が 4 月 1 日(火)より設置され、水、水循環、水環境等に関する知恵と体験と想いを結び、次世代人材育成に繋がる諸活動を水問題に敏感な先端的企業との協働により推進しようとするその構想は内外で大きな反響を呼んでいます。この寄付講座が何を目指しどのような活動をしていくのか、その社会的、時代的な背景と現代的な意味を探り、今後の寄付講座を核とした協働を強力に推進するために、市民、政府、企業、そして大学、といったさまざまな視点から水と社会と地球環境について語るシンポジウムを開催いたします。洞爺湖 G 8 サミットが開催される直前のタイミングでもあり、広く地球環境の視点も交えつつ、市民、学生や教員、専門家など多様な聴衆に水に関する理解と造詣を深めてもらうことを期待しています。

日時: 7月4日(金) 14:00～17:00

場所: 安田講堂(東京都文京区本郷)

#### 講演予定者(講演順):

佐治 信忠  
(サントリー株式会社代表取締役社長)  
「寄付講座設立に寄せて」



小宮山 宏（東京大学総長）  
「地球環境問題に挑む世界の大学～  
G 8 学長サミット報告～」



中川 昭一（衆議院議員）  
「水のために政治ができること  
～水の安全保障研究会より～」



竹村 公太郎  
（日本水フォーラム事務局長）  
「21 世紀の日本文明と水」



高倉正樹（読売新聞社記者）  
「世界の水問題の現場を訪ねて」



小嶋 幸次（サントリー株式会社取締役）  
「水と生きるサントリーの取り組み  
～水のサステナビリティを目指して～」



沖 大幹（東京大学生産技術研究所教授）  
「地球をめぐる水と水をめぐる人々  
～寄付講座のこれから～」



連絡先：sympo2008@wow.u-tokyo.ac.jp  
登録方法：下記 WEB サイトより事前登録することができます。  
<http://www.wow.u-tokyo.ac.jp>



募集

国際連携本部 AGS 推進室

平成 20 年度東京大学 AGS 研究会研究課題の  
募集

東京大学、マサチューセッツ工科大学（MIT）、ス  
イス連邦工科大学、チャルマーズ工科大学による AGS  
（Alliance for Global Sustainability）は地球環境の保全  
という制約条件下で持続的な発展を求めて現実的な方策

等の提言を行う共同研究を推進している国際パートナ  
シップです。スタートから 12 年を経過し、2006 年より  
第 3 期活動を進めています。第 3 期においては各大学が  
地域の活動により一層力を入れるという方針のもと、東  
京大学 AGS 研究会ではこれまで以上にアジアでの活動  
を推進し、とりわけ中国、韓国、東南アジア諸国、イン  
ドのサステナビリティに関わる研究・取り組みを強化  
し、これらの国を代表する大学・研究機関との連携を推  
進しています。

このたび東京大学 AGS 研究会では、昨年と同様に  
Full Project と Seed Project の 2 種類について平成 20  
年度の研究課題を募集いたします。アジアを視点に置き  
ながら、Full Project については、AGS の重点分野であ  
る水、食糧、エネルギー、未来の都市、Mobility、リス  
クマネージメントなどに関する研究課題の他に、持続可  
能性を支える文化の多様性や持続可能な社会と Gender  
の役割などの新しい研究課題についても研究基金を配分  
いたします。また、将来重要性が期待される Seed 的な  
研究課題 Seed Project についても研究基金を用意いた  
します。特に今まで応募されていない新しい方の応募、  
新しいアイデアに基づいた研究課題の提案をお待ちして  
います。

#### 1. 研究課題応募に際しての留意点

- ①サステナビリティに関する研究プロジェクトとして採択されることを目指す研究であること。
- ② Full Project は学際性、国際性、社会連携（注）のいずれか一つ以上を満たすものであること。
- ③研究課題用の応募用紙を用いる（項目 2 を参照）。
- ④一件当たり Full Project は年間 200 万円以内、Seed Project は 50 万円以内の研究助成基金を配分する予定。
- ⑤研究代表者は本学教員であることが必須ですが、共同研究者として研究員、大学院生が参画できます。助成基金の配賦は秋以降となり、実質上研究期間が平成 21 年度にかかりますので、来年 3 月に退職される教員の方は研究代表者となられることをご遠慮ください。
- ⑥海外で実施される AGS 年次総会、Technical Meeting や AGS が関与する会議で重要と認められた会議に参加する場合の旅費は別途予算として計上準備する予定ですので、本年度の研究課題申請の際には上記会議への参加費用の計上は必要ありません。
- ⑦採択されました研究課題の研究代表者の方には以下の義務を負っていただきます。いずれもその時期になりましたらお願いの連絡をいたします。
  - ・2009 年 12 月ごろに開催する中間報告会での口頭発表（15 分間程度）
  - ・2010 年 6 月ごろまでに 5～6 ページのレポート提出
  - ・会計報告



(注) 社会連携：技術や制度の社会における実践・普及を念頭に置き、研究プロジェクトにおいて社会の様々な関係者と連携すること。

2. 応募ご希望の方は応募用紙をお送りいたしますので下記まで連絡をください。
3. 応募用紙にご記入の上、7月4日（金）までにe-mailでご提出をお願いいたします。  
提出期限までに十分な期間がなく申し訳ありませんが、よろしくをお願いいたします。

#### 応募用紙依頼、課題申請書の提出、問合せ先

戸上 雄司（とがみ ゆうじ）  
東京大学 AGS 推進室  
内線：21548  
E-mail:togami@ir3s.u-tokyo.ac.jp



#### お知らせ

本部学生支援グループ

東京大学の海の家・山の家「保健体育寮（スポーティア）」  
夏期特別開寮のお知らせ

～『今年の夏休み』スポーティアでリフレッシュしてませんか？～

本学に、抜群の立地条件を誇る宿泊施設『保健体育寮（愛称スポーティア）』があるのをご存知ですか？

スポーティアは、本学の学生・教職員、卒業生及びその同伴者が利用できる施設で、伊豆や山中湖など4箇所あり、目的に合わせてチョイスできます。

西伊豆にあり、海水浴場まで0分の抜群のロケーションを誇るスポーティア戸田、※山中湖畔の避暑地でスポーツが満喫できるスポーティア山中、南伊豆にあり海水浴と温泉を満喫できるスポーティア下賀茂、乗鞍岳中腹にあり、星降る夜空に思わず感激してしまうスポーティア乗鞍とバリエーションも豊かにラインアップしております。特に乗鞍山麓の秘境・スポーティア乗鞍は夏期限定となっておりますので、「星に願い」をこの機会にいかがでしょうか。

※なお、山中寮は本年度建て替え工事のため休寮中。  
2009年4月に「内藤セミナーハウス」として新装オープン予定です。

研究室やサークルの合宿に、また、夏の旅行にお気軽にご利用ください。

利用の概要は下記のとおりです。詳細については、東京大学運動会ホームページを参照されるか、本部学生支援グループ体育チーム（運動会窓口）までお問い合わせください。

#### 1. 夏期特別開寮期間及び受付開始日

##### (1) 夏期特別開寮期間

（宿泊は最終日前夜までとなります。）

- ・ スポーティア戸田：7月26日（土）～8月19日（火）
- ・ 「」 下賀茂：7月30日（水）～8月24日（日）
- ・ 「」 乗鞍：7月29日（火）～8月21日（木）

##### (2) 受付開始日

- ・ 学生、教職員のみ利用の場合…5月30日（金）～
- ・ 学生、教職員とその家族・同伴者で利用の場合…6月6日（金）～
- ・ 卒業生等とその家族・同伴者で利用の場合…6月13日（金）～

#### 2. 宿泊費（1泊2食の場合）

- ・ 学生（附属学校生徒を含む）2,500円
- ・ 大学院生・教職員 2,900円
- ・ 卒業生・同伴者（4歳以上）3,000円

#### 3. 申込場所・時間

本郷：御殿下記念館モール階 運動会受付窓口  
月曜日～金曜日 9:30～17:00

（但し、宿泊費の支払いについては、16:00までにお願ひします。）

駒場：教養学部等学生支援課

（アドミニストレーション棟8番窓口）

月曜日～金曜日 9:00～16:30

#### 4. 問い合わせ先等

本部学生支援グループ体育チーム

（内線：22509～22511）

東京大学運動会ホームページ

<http://www.undou-kai.com/>

#### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第512（6月4日）号の発行  
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第512号の内容は以下のとおりとなっておりますので、ぜひご覧ください。

田中 純：『都市の詩学』をめぐって  
矢口祐人：世界を考える  
——国際ジャーナリズム寄付講座の開設  
石橋 純：内輪の宴席から文化発信  
～レクチャー／ライブ  
「ベネズエラのホローボ」

#### 〈特集：女性たちにとっての駒場〉

北川東子・黒田玲子：豊かに生きて探求すること  
一條麻美子：産休・育休～妊婦にとっての駒場  
谷垣真理子：駒場で子育て

木村秀雄：〈本の棚〉 斎藤兆史著『努力論』  
桜井英治：〈本の棚〉 記紀・万葉集とは何ものか  
神野志隆光著『複数の「古代」』

### お知らせ

#### 情報基盤センター

#### “情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。

夏休み前に、ぜひご参加ください。

#### ●会 場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー  
(定員12名 予約不要です。直接ご来場ください。)

#### ●日程・コース概要：

#### ■ 7月3日(木)11:00～12:00 日本の論文を探すには？

日本の論文を探すときの代表的なデータベースであるCiNii(サイニイ)の使い方を中心に、日本の論文・雑誌記事を検索できるデータベースを紹介します。

#### ■ 7月9日(水)15:00～16:00 自宅から検索するには？

学内・学外を問わず利用できる無料公開のデータベース・電子ジャーナルなどを紹介します。また、通常は学内からのみ利用可能なデータベース・電子ジャーナルでも手続きをして学外から利用できるものがありますので、その方法を解説します。今年度より新たに学外から利用できるようになったデータベースや電子ジャーナルも紹介します。

#### ■ 7月15日(火)13:30～14:30 電子ジャーナルを利用するには？

代表的な出版社の電子ジャーナルサイトを例にとって実際の利用方法を解説します。

“東京大学学術論文横断検索(UT Article Search)”や“UT Article Link”を使って、データベース検索結果から電子ジャーナルへアクセスする方法も紹介します。

#### ●問い合わせ：

学術情報リテラシー係  
03-5841-2649(内線：22649)  
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

### お知らせ

#### 本部学生支援グループ

#### 東京大学音楽部管弦楽団 サマーコンサート 2008のお知らせ

音楽部管弦楽団は毎年東京近郊と日本各地でサマーコンサートを開催しております。今年度の日時・会場・プログラム等詳細について、ご案内させていただきます。

#### <千葉公演>

7月13日(日)13:30開場 14:00開演  
森のホール21(松戸市文化会館)大ホール

#### <東京公演>

7月19日(土)18:00開場 18:30開演  
文京シビックホール 大ホール

#### <名古屋公演>

8月1日(金)18:00開場 18:30開演  
愛知県芸術劇場 コンサートホール

#### <大阪公演>

8月2日(土)18:00開場 18:30開演  
高槻現代劇場 大ホール

#### <新潟公演>

8月4日(月)18:00開場 18:30開演  
新潟市民芸術文化会館  
りゅーとびあコンサートホール

指揮：三石 精一(当団終身正指揮者)

#### 曲目：メンデルスゾーン

交響曲第3番イ短調「スコットランド」  
リスト  
交響詩「レ・プレリュード」  
チャイコフスキー  
幻想序曲「ロメオとジュリエット」



料金：全席自由 1000 円

チケットのお申し込み・お問い合わせ：

当団ホームページ (<http://webs.to/todaiorch/>) または  
メールアドレス [ticket@todaiorch.cjb.net](mailto:ticket@todaiorch.cjb.net) まで  
ご連絡ください。

## お知らせ

### 海洋アライアンス

#### シンポジウム「第3回 東京大学の海研究 - 海と人類との新たな接点」のご案内

海洋アライアンス（機構長：浦 環）の実施するシンポジウムをご案内します。一昨年から数えて3回目の開催となる海洋アライアンスシンポジウムですが、過去2回はいずれも400名を越える方々が参加され、盛況のうちに終わりました。今回は海に関する分野横断的な取り組みを強調し、個別の講演の他にもミニシンポジウム2件を企画しております。文系、理系を問わず、海に関心のある皆様、奮ってご参加ください。

### 海洋アライアンス

海洋アライアンスは社会から要請される海洋関連課題の解決に向けて、グローバルな観点から国と社会の未来を考え、海への知識と理解を深め、新しい概念・技術・産業を創出し、関係する学問分野を統合して新しい学問領域を拓いてゆくとともに、シンクタンクとしてわが国の海への取り組みに貢献することを目指します。



UT OCEAN ALLIANCE

## 海洋アライアンスシンポジウム

第3回東京大学の海研究 - 海と人類との新たな接点 -

日時： 7月15日（火）

9:30 ~ 18:00

場所： 鉄門記念講堂（医学部教育研究棟）  
（懇親会は山上会館）

参加費： 無料（懇親会費は3,000円）

### セッション&ミニシンポジウム

#### セッション1

- 海を越える脅威：水産物の防疫  
（農学生命科学研究科 良永知義）
- 脊椎動物の頭部進化と比較ゲノム  
（理学部附属臨海実験所 黒川大輔）

#### ミニシンポジウム（1）

- 油濁汚染と国際技術基準の交渉戦略  
コンビーナ 奥脇直也（公共政策大学院）  
城山英明（同上）  
許 淑娟（同上）
- 話題提供 西村 弓（上智大学教授）  
落合誠一（中央大学法科大学院教授・  
東京大学名誉教授）、他1名を予定

コメンテーター 城山英明

#### ミニシンポジウム（2）

- 海底熱水鉱床の開発問題に関する海洋アライアンスの  
取り組み  
コンビーナ 浦辺徹郎（理学系研究科）  
玉木賢策（工学系研究科）  
福島朋彦（海洋アライアンス）
- 話題提供 浦辺徹郎、福島朋彦、中谷和弘  
（法学政治学研究科）
- 総合討論 座長 玉木賢策（工学系研究科）

#### セッション2

- 地下の温度構造と熱流量（地震研究所 山野 誠）
- 光ルミネッセンス強度測定による天竜川・遠州灘流砂  
系の土砂移動（海洋研究所 白井正明）
- 沿岸域の計画・管理における地域知の生態工学・法制  
度への展開と国際ネットワーク形成  
（総合文化研究科 清野聡子）
- 国際政治学・日韓関係を中心とする現代東アジアの国  
際関係に関する研究 - 竹島問題  
（東洋文化研究所 玄大松）

「海洋アライアンス」の新展開

（海洋アライアンス機構長 浦 環）

\*最新のプログラムは海洋アライアンスホームページで  
随時更新いたしますので、ご参照ください。

### \*参加申し込み方法：

海洋アライアンスホームページから登録してください  
(先着 400 名) <http://www.oa.u-tokyo.ac.jp>

### 主催： 海洋アライアンス

代表推進者組織： 理学系研究科、工学系研究科、農  
学生命科学研究科、新領域創成科学研究科、公共政策  
大学院、総合文化研究科、地震研究所、東洋文化研究所、  
生産技術研究所、史料編纂所、海洋研究所、アジア生  
物資源環境研究センター、気候システム研究センター

### お問い合わせ

海洋アライアンス事務局 野村英明  
E-mail: [office@oa.u-tokyo.ac.jp](mailto:office@oa.u-tokyo.ac.jp)  
tel: 03-5351-6483、fax:03-5351-6482

## お知らせ

### 海洋研究所

### 「一般公開」のお知らせ

海洋研究所では、研究成果や海洋の知識をわかりやす  
く紹介し、研究所への理解を深めていただくために、一  
般公開を下記のとおり行います。



中野キャンパス

子どもから大人まで楽しめる企画を多数用意して、海  
洋と地球環境とのかかわりなど「海」の重要性について  
お伝えしたいと思います。東京都中野地区と、岩手県大  
槌地区でそれぞれ下記の日程で開催いたします。多数の  
方々のご来場をお待ちしています。

### <岩手県大槌地区>

日時：7月21日(月・祝日「海の日」)  
10:00～15:00

場所：国際沿岸海洋研究センター  
(岩手県上閉伊郡大槌町)

### テーマ「三陸の海と生き物に親しもう!!」

- 所内見学ツアー
- 体験!海藻押し葉づくり・ロープワークコーナー
- お魚ふれあいコーナー・沿岸生物・各種パネルなど  
の展示
- 研究船「弥生」船内見学コーナー
- 講演(13:00～)  
「海の流れるのはなし」(道田豊教授(センター長))

### <東京都中野地区>

日時：7月19日(土)11:00～16:30

場所：海洋研究所

- 市民講座(13:00～14:00)  
「碧い海、蒼い空、白い雲－地球を冷やすには－」  
(植松光夫教授)  
「三内丸山遺跡の縄文人と三陸沖の漁場」  
(川幡穂高教授)
- ロープワーク・・・あなたも船乗りになってみよう!
- 研究所内の隠れた部屋を回る、「研究所ツアー」
- 各研究室の展示：海底お散歩、ミニ水族館、  
おもしろ渦実験、タッチプール  
海藻の押し葉づくり  
など、体験型の企画が盛りたくさん
- 研究船が持ち帰った南極の水も登場!

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2008/>

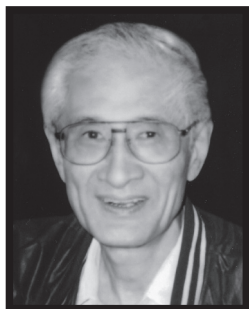


## 松井 透 名誉教授

松井透先生は、2008年3月23日(日)逝去されました。享年81歳でした。

先生は1926年8月3日に東京でお生まれになり、京都府立第一中学校、第三高等学校、京都大学理学部(中退)、同工学部(中退)を経て1952年3月に本学文学部西洋史学科を卒業されました。1955年3月に本学大学院(文学部)研究奨学生前期を修了、1956年4月に青山学院大学経済学部第二部専任講師に着任され、1960年4月には同助教授に任ぜられました。1965年2月に本学東洋文化研究所に専任講師として採用され、1968年4月に同助教授、1973年7月に同教授に昇任、1987年3月に定年退官されました。1988年川村学園女子大学文学部教授に任ぜられ、2000年3月まで同大学図書館長、2000年4月から2001年4月まで文学部長を務められたのち、2002年4月に同大学を定年退職されました。

先生のご専門は南アジア近代史研究であり、インドの土地制度史研究の分野で業績を挙げられたのち、国



から各地方行政レベルにわたり残された膨大な統計資料をコンピュータを用いて整理・分析して歴史研究に新たな知見を得るという研究方法をはじめて開発・確立され、『北インド農産物価格の史的研究』(1977年)という国際的にも高い評価を得た著作を発表されました。さらに先生は、村落レベルの史料・統計をも使いながら、北インドにおけるイギリスの植民地支配の実態を解明した大著『イギリス支配とインド社会』(1987年)や、やはりコンピュータによる統計分析の手法を最盛期のイギリス帝国の長期貿易統計にも適用した名著『世界市場の形成』(1991年、日経・経済図書文化賞受賞)などをも残されました。

先生はまた、1988年10月に創設された日本南アジア学会の初代理事長として8年にわたりその運営に中心的な役割を果たされるとともに、1994年7月から1997年6月まで日本学術会議会員、1997年10月から2000年6月まで日本学術会議東洋学研究連絡委員会委員長を務められて学界の発展に大きく貢献されました。

歴史家として膨大な実証的史料と格闘されながら、先端的な分析方法と新しい歴史解釈の視点の探求にたゆまぬ情熱を傾けられた先生の面影を偲びつつ、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(東洋文化研究所)

# 事務連絡

## 人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

	氏名	異動内容	旧（現）職等
（昇任）			
20.5.16	登坂 博行	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
20.6.1	笠井 清登	大学院医学系研究科教授	医学部講師
（配置換）			
20.6.1	大原 美保	大学院情報学環附属総合防災情報研究センター准教授	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究センター准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

## 平成20年度 学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日	配布
1375	7月 2日（水）	7月 18日（金）	7月 25日（金）
1376	7月 31日（木）	8月 21日（木）	8月 27日（水）
1377	9月 3日（水）	9月 22日（月）	9月 29日（月）
1378	10月 1日（水）	10月 20日（月）	10月 24日（金）
1379	10月 29日（水）	11月 14日（金）	11月 20日（木）
1380	学生生活実態調査号		
1381	11月 26日（水）	12月 12日（金）	12月 18日（木）
1382	1月 7日（水）	1月 26日（月）	1月 30日（金）
1383	1月 29日（木）	2月 16日（月）	2月 20日（金）
1384	2月 25日（水）	3月 13日（金）	3月 19日（木）

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)

【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】

問い合わせ先・原稿提出先

INFORMATION記事ご寄稿の際には、記事上の開催日・〆切等が当該号配布日以降であることをご確認のうえ、お送りください。また、即時性を要求される告知記事の掲載はホームページ・ポータルサイトをご活用ください。

本部広報グループ 広報企画チーム

TEL: 03-3811-3393 内線22031

E-mail: [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)



# 第81回五月祭開催される

## 開催日

5月23日(金)午後 学内公開  
5月24日(土)両日 一般公開  
25日(日)



オープニングパレード



法文1・2号館前に出現した巨大オブジェ

また、五月祭常任委員会では、昨年の麻疹流行の状況を鑑み、早期より麻疹対策に取り組むとともに、当日は、百日咳と併せて来場者へのチラシや看板等にて注意喚起を行いました。



安田講堂でのシンポジウム  
(東京大学新聞社)



小野寺委員長挨拶  
(オープニング:24日)

今年も、講演会、研究成果の展示、音楽演奏、各種パフォーマンスや模擬店等、約400件の企画が参加しました。メイフェスティバルアワード2008を受賞する人気団体の他、今年も、東大闘争関係の写真展及びシンポジウムや町村信孝内閣官房長官の講演会等が行われ、立見が出るほどの大盛況ぶりでした。



メイフェスティバルアワード2008音楽部門に選ばれた  
和太鼓ライブ(彩-sai-)

今年のテーマは「En-join」。五月祭では初めての試みとして前夜祭が行われ、祭はスタートしました。マスコットの「ほんごぽん」、テーマソングが作られる等、一般公開日は実際に参加する企画者だけでなく、来場者の方も楽しめる工夫が屋内外の至る所にみられました。



オープニングイベント(書道研究会)



模擬店付近の様子



今年の五月祭ロゴ

なお、途中、雨にも見舞われましたが、最終日の午後には天候も回復し、一般公開日の2日間で約65,000人(昨年と同数)の方が来場しました。

今年の五月祭も大きな混乱、事故等もなく無事終了しました。ご協力いただいた関係者をはじめ、ご来場いただいた多くの方々にお礼を申し上げます。

■本件問合せ先:本部学生支援グループ 宮内(内線:22514)

# Contents

## 特集

- 02 本部プロジェクトグループ  
安心・安全なキャンパス整備を進めています。  
～これまでに実施した事業とこれからの予定事業～

## NEWS

- 06 春の紫綬褒章受章
- 一般ニュース
- 07 サステイナビリティ学連携研究機構  
IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウム「科学者が語る第4次評価報告書のメッセージ」開催される
- 07 本部学生支援グループ  
山中寮休寮式典開催される
- 08 本部学生支援グループ  
「第60回東京大学・一橋大学対校競漕大会（東商戦）」開催される
- 08 地球観測データ統合連携研究機構  
第2回「データ統合・解析システム」（DIAS）  
フォーラム開催される
- 09 本部奨学厚生グループ  
「東京大学外国人留学生特別奨学制度および姜裕文奨学基金（東京大学フェローシップ）平成20年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

## 部局ニュース

- 10 大学院教育学研究科・教育学部  
バリアフリー推進室を開設
- 10 大学院総合文化研究科・教養学部  
三鷹国際学生宿舎新入居学生の歓迎会行われる
- 11 分子細胞生物学研究所  
豊島教授、カリフォルニア大バークレー校  
Hitchcock Professorに任命される
- 11 医学部・医学部附属病院  
医学部・医学部附属病院創立150周年記念式典、  
皇太子殿下が御臨席され開催される
- 12 海洋研究所  
海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターにて海洋  
環境臨海実習が行われる
- 13 大学院理学系研究科・理学部  
附属植物園に環境整備を導入
- 13 先端科学技術研究センター  
東大と社会がつながる場—カフェミックス2008開催
- 14 大学院総合文化研究科・教養学部  
駒場コミュニケーション・プラザが東京建築賞最優秀賞を受賞
- 15 大学院教育学研究科・教育学部  
東京大学教育学部附属中等教育学校創立60周年記念式典、行われる
- 16 大学院法学政治学研究科・法学部  
新入生歓迎会、外国人等留学生等との懇談会を開催

## キャンパスニュース

- 16 本部学務グループ  
平成20年5月1日現在学生数  
—学部学生 14,085人、大学院学生 13,732人、  
研究生等 809人—

## 表紙写真

情報学環・福武ホール  
(2ページに関連記事)

## コラム

- 19 Crossroad 産学連携本部だより vol.31
- 20 サステナな日々 vol.7
- 21 ケータイからみた東大～東大ナビ通信 No.7～
- 22 インタープリターズ・バイブル vol.13
- 22 Relay Column「ワタシのオシゴト」第28回
- 23 コミュニケーションセンターだより No.48
- 23 噴水 教育学部附属中等教育学校、第8回高校生の  
意見発表会でメッセージ賞受賞
- 24 噴水 教育学部附属中等教育学校で「学びの共同体」  
研究会行われる
- 25 噴水 教育学部附属中等教育学校で遠足実施される
- 25 噴水 教育学部附属中等教育学校で体育祭が行われる

## INFORMATION

### シンポ・講演会

- 26 大学院法学政治学研究科・法学部  
COE「先進国における《政策システム》の創出」  
シンポジウムのお知らせ
- 26 総括プロジェクト機構  
「水の知」（サントリー）総括寄付講座設立記念シン  
ポジウム～水の世紀に立ち向かう政府・市民・企業  
と大学～のご案内

### 募集

- 27 国際連携本部 AGS 推進室  
平成20年度東京大学 AGS 研究会研究課題の募集

### お知らせ

- 28 本部学生支援グループ  
東京大学の海の家・山の家「保健体育寮（スポー  
ティア）」夏期特別開寮のお知らせ
- 28 大学院総合文化研究科・教養学部  
「教養学部報」第512（6月4日）号の発行——教  
員による、学生のための学内新聞——
- 29 情報基盤センター  
情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ
- 29 本部学生支援グループ  
東京大学音楽部管弦楽団 サマーコンサート2008  
のお知らせ
- 30 海洋アライアンス  
シンポジウム「第3回東京大学の海研究—海と人類  
との新たな接点」のご案内
- 31 海洋研究所  
「一般公開」のお知らせ

## 訃報

- 32 松井透名誉教授

## 事務連絡

- 33 人事異動（教員）
- 34 第81回五月祭開催される

## 淡青評論

- 36 見えない価値





七徳堂鬼瓦

## 見えない価値

「大きさ 100 分の 1 ミリ。見えませんが、学術的価値は高いです。」こう言われて興味を持つだろうか？アメリカ航空宇宙局（NASA）の探査機が、4 億キロメートル離れた彗星から持ち帰ったサンプルを前に考えた。総合研究博物館で昨年行われた「異星の踏査」展を企画していた時のことである。そのサンプルの、あまりにも小さく凡庸とした見かけはセンセーショナルな惑星探査のイメージと乖離しており、一般市民に対する訴求力は弱いと判断した NASA は公開を見送ったようだ。

凡庸な見かけであっても、このサンプルは月以外の場所において人類が能動的に獲得した、初の地球外物質にはかならない。その意義を東大の研究を紹介する場において実際の研究者が訴えれば興味を喚起できるのではないか。そう考えて実験展示の名のもと「見えませんが、本当にここに在るのです」と付記し展示に踏み切った。するとありがたいことに、多くの来訪者から予想以上の好評を博した。

そこで思い出した。アメリカで研究していた頃、アメリカの文化はデコレーションケーキのようだと感じたものだ。外見を壮麗に仕立てアイデアの奇抜さを効果的に示す術は秀逸で、初見の際に強烈なインパクトで圧倒する。しかし食べ進めると中のスポンジは意外に単調で、外見とのギャップに驚くことがある。この点は日本人の好む丼物と対照的だ。画一的な外見でも、蓋を開けると多彩な具の繰り出す小宇宙が垣間見える。これを喜ぶのは、世阿弥の言う「秘すれば花」に通じる心なのかもしれない。

この展示会は結果的には、科学史に残るサンプルを一般に公開した世界で初めての機会となったが、その原因として外見に関する文化的差異が挙げられそうだ。他国で物足りないと思われる凡庸さが、日本では奥ゆかしさと受け入れられることがある。同じ理由から、表面的な容易さと歓楽性に重点を置く昨今の理科離れ対策について、私は疑問を感じている。確かに同様に理科離れに苦しむアメリカでは、兎に角目を引くビジュアルな教材作りが盛んだし、ある程度の効果があるようだ。しかし日本では、むしろ自然の美や先人の独創性を読み取る感性を磨き、見かけに関わらずその本質に興味を見出す力を伸ばすといったアプローチの方が有効であるように思う。

宮本英昭(総合研究博物館)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

### [訂正]

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。関係部局および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1373 (2008.5.16)  
13 ページ右段：上から 2 行目

(誤) 生源寺眞研究科長  
(正) 生源寺眞一研究科長

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No. 1374 2008 年 6 月 13 日  
東京大学広報委員会

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学本部広報グループ  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
http://www.u-tokyo.ac.jp